

## 京都の散歩道 (11) 井上靖さんと朝比奈隆さん—文学と音楽の巨匠

新年の散歩道は、文学と音楽の巨匠から始めましょう。われらが京大の大先輩という親しみを込めたいので、敬語は用いないものの敬称略とはせず、井上靖(1907–1991.1.29)さんと朝比奈隆(1908–2001.12.29)さんと呼ばせていただきます。命日までわざわざ記したのは、井上さんは昨年1月末で没後30年、朝比奈さんは昨年末でちょうど没後20年というタイミングであったことをお知らせするためです。

井上さんは1932年(24歳)に九州帝大を中退して京都帝大文学部哲学科に入学、1936年(28歳)に卒業しました。一方の朝比奈さんは1928年(19歳)に京都帝大法学部に入学して1931年(22歳)に卒業。高等文官試験(高文)に落ちて阪神急行電鉄(現阪急電鉄)に就職するも、1933年(24歳)に文学部哲学科に学士入学して1937年(28歳)に卒業。二人とも回り道の多い学生時代で、同時期に京都帝大に在籍しました。その二人が、それぞれ文学と音楽の道を究めて1976年(69歳)と1994年(86歳)に文化勲章に輝くのですから、われわれ京大関係者にとっては嬉しく誇らしい限りです。

筆者は学生時代、まず『あすなる物語』で井上さんに接して感動し、続いて日本あるいは中国の歴史物に進みました。しかし読んだ本はそれほど多くはないので、井上さんについてここで詳述することもできず、先日近所の図書館で29巻からなる井上靖全集(新潮社、1995–2000、文末の総目次ご参照)<sup>1</sup>を見て、ただただ圧倒されたことだけお伝えします。なお、井上さんが毎日新聞社、松本清張(1909–1992)さんが朝日新聞社、司馬遼太郎(1923–1996)さんが産経新聞社と、昭和を代表する文豪がいずれも新聞社勤務を経て大きな仕事をされたことを興味深く思います。

一方、朝比奈さんは大阪フィルハーモニー交響楽団などと『ベートーヴェン交響曲全集』を7回録音(世界記録)、その初回(1973)と最終回(2000)の全集を筆者は愛聴しています(正直なところ、ブルックナーは時間が長くてなかなかじっくり聴く余裕もないことも加わり、筆者には難しいです)。朝比奈さんと同年生まれのカラヤン(1908–1989)さんとは対極にあるような「愚直」(ご当人の好きな言葉)な演奏に感動します。なお、朝比奈さん自身による多数の本から一冊を選ぶと『楽は堂に満ちて』<sup>(1)</sup>。一方、第三者による密度の高いものを厳選しますと、響敏也さん<sup>(2)</sup>、木之下晃<sup>(3)</sup>さん、岩野裕一<sup>(4)</sup>さん、中丸美繪<sup>(5)</sup>さんの本がお薦めです(大阪フィルについては渡辺佐<sup>(6)</sup>さんの本も)。朝比奈さんの場合、まず東京高等学校<sup>2</sup>第一期生としての人脈がその後の展開に大いにプラスしたことが印象的ですが、もちろん京都帝大や関西での新たな人脈も劣らず重要です。以下は井上さんとの接点分かる貴重な小文です。

<sup>1</sup> 井上靖記念文化財団理事長の井上修一氏から伺った話では、井上さんの全作品を収めるには、さらに16巻必要なので、多くの作品が井上靖小説全集(全32巻、新潮社、1972–75)の方にのみ収められているそうです。

<sup>2</sup> 1921年創立で1950年まで存続した官立の七年制高校。実質的に東京帝大にもつながっており、1950年代末における卒業生の活躍に対し大宅壮一さんが「ジュラルミン高校」と呼びました。文藝春秋1965年5月号の『同級生交歓』には、朝比奈さんの他、内田藤雄(ピアニスト内田光子さんの父)、篠島秀雄、清水幾多郎、出淵国保、日向芳齊、平井富三郎、宮城音弥の各氏が集合しています。

朝比奈隆氏と私 井上靖

私は昭和七年から十一年まで、京都大学文学部に籍を置いていた。専攻は美学であったが、学校には全然出なかったの、同じ専攻の学生の殆どを知らなかった。卒業前年の秋、何かの用事で主任教授の植田寿蔵（編集人注：1886-1973）博士にお目にかかりに研究室へ出向いて行ったら、あなたが井上君かと言われた。そしてあなたと同じようにいっこうに学校に顔を現わさないのがもう一人居ると、先生は付け加えられた。朝比奈隆氏であった。

しかし、朝比奈隆氏はその頃既に大学では有名であった。大学のオーケストラの指揮者として、氏の名前は、音楽とは無縁であった私もまた知っていた。

私は卒業を一年おくらせたので、京都大学には四年間籍を置いたことになるが、その四年間に、一度だけ朝比奈氏と言葉を交したことがある。卒業論文を文学部の事務室に提出しに赴いた時、やはり卒業論文を持って来た朝比奈氏と、事務室の窓口でお会いしたのである。昭和十一年の二月の初めだったと思う。

その日、二人は二十分ほど大学附近の道を歩いた。下宿でも同じ方面にあったのかも知れない。朝比奈氏は、あなたですか、井上さんという人はと、植田先生と同じようなことを言われた。そして、お互いに一回の講義も聴かないで卒業するということが虫がよすぎますよと、そんなことを言って、笑った。その時、大学附近の喫茶店へでもはいったのではなかったかと思うが、確かなことは憶えていない。ただ一つ、その日のことで憶えていることは、一体音楽とは何か、指揮するとは何かと、甚だ第一義的なことを質問したかったのであるが、結局はそれを口に出さなかったことである。

その春、私はどうにか大学を卒業させて貰ったが、朝比奈氏が卒業したかどうかは知らない。氏は論文をひっこめるか何かして、もう一年おくれられたのではなかったかと思う。

数年前、「文藝春秋」誌上に「同級生交歓」という写真を載せるために、東京のどこかで氏とお会いしたことがある。大学卒業以来初めてであり、まさに同級生交歓であった（編集人注：後で転載する文藝春秋の記事から、正しくは「数年前」ではなく「十一年前」で、場所は「日比谷公会堂」です）。

その折、私は話題を音楽の方に持って行きかけて、途中で思い返して、話を他に移してしまった。若い時でさえ保留した質問を、今更どうして再びとり上げる必要があるか、そんな気持がどこかにあった。

それ以来、今日まで、氏とはお会いしていない。私は氏の仕事がいかなるものか、新聞や雑誌で承知しているし、氏の指揮する交響楽団の演奏を、聴衆の一人として聴いてもいる。派手な舞台上の氏を遠くから見ていて、あそこに朝比奈隆が居ると思う。同じように氏もまた、小説家としての私の文章を眼にする機会を一回や二回は持っているのではないかと思う。大学の同級生ではあるが、そしてお互いに芸術、文学の仕事に携っているのであるが、二人の関係は甚だ疎遠と言う他はない。

疎遠という言葉は使ったが、他に適当な言葉がないから、この言葉に代行して貰ったわけであるが、実は、私の氏に対するものは、決して表面的意味での疎遠と言えるようなものではないのである。と同様に、おそらく氏の私に対するものも同じことではないかと思うのである。若い日、あの自己表現を摸索している、明るくも暗くもある特殊な時期に、そして朝比奈氏にとっても、私にとっても、おそらく生涯で最も大切であったに違いない時期に、たとい短い時間でも、京都の町を肩を並べて歩いた者同士が、どうして相手に疎遠であることができるであろうか。

疎遠でなかったからこそ、私は数（編集人注：十一）年前にお会いした時にも、音楽について何も質問しなかったのである。この次お目にかかっても、やはり音楽についての質問は保留することになるのではないかと思う。

音楽というものは、指揮するということは、一体何ですか。もし私が質問したら、氏もまた私に質問するかも知れない。文学とは、小説とは、詩とは、そしてそうしたものを書くということは、一体何ですか、と。

考えてみると、若い日に交すべきであった言葉を、そして若い日であつたら交してもおかしくなかった言葉を、そして交さないより交しておいた方がよかったに違いない言葉を、私たちは交していないのである。私たちは、音楽家としても、文学者としても、まだお互いに名乗りをあげていないのである。

この小文を綴りながら、一度ゆっくりと氏にお目にかかりたい気持がしきりである。いつか京都大学の事務室の前でお目にかかってから三十数年経っている。当時大学の主任教授であった植田寿蔵博士は現在九十歳近い高齢であるが、今なおご健在である。博士は私のこの文章を読まれたら、音楽とか、文学とか、そんなものは判りはしませんよ。判ったら芸術家でも、文学者でもないでしょう。昔、一度も教室に顔を見せなかった二人の弟子に対する労わりの気持をこめて、博士は優しくこうおっしゃりそうな気がする。

朝比奈隆、『ベートーヴェン交響曲全集』学研(1973)や再版版ナクソス(2013)のライナーノート、あるいは『井上靖全集別巻』、pp.369-371、新潮社(2000)より。井上修一氏のご許可を得て全文を転載。なお、朝比奈隆、『この響きの中に 私 の音楽・酒・人生』、実業之日本社(2000)の序文としても再掲されており巻末の初出一覧では(1978)となっていますが、正しくは学研から最初にレコードが販売された(1973)です。

話が前後しますが、朝比奈さんが大阪フィルハーモニー交響楽団を日本屈指の楽団に育て上げた背景には、幾多の偶然も重なっています。そもそも東京育ちの朝比奈さんが東京高校から京都帝大に進学したのは、東京帝大入試に失敗したのが発端ですが、加えて当時東京高校に送られてきた京大新聞の記事が決定打となりました。京大音楽部(1916年誕生)が新交響楽団(のちのNHK交響楽団)にも登場したロシアのエマヌエル・メッテル(1878-1941)氏を、大村恕三郎、深瀬周一、瀬戸口藤吉の各氏に続く第4代の常任指揮者としているとの記事を見て、かつ黄金時代の法学部——憲法は佐々木惣一(1878-1965)教授、民法は末川博(1892-1977)教授、刑法は滝川幸辰(1891-1962)教授に学べるということで、迷うことなく京都帝大をめざしたそうです。

朝比奈さんが阪神急行電鉄に就職したのは、朝比奈さんの複雑な出自と関係しています<sup>(5)</sup>。朝比奈さんの実父 渡邊嘉一(1858-1932)氏は「日本土木史の父」と呼ばれ、全国の電気鉄道会社などの経営に参画したほか、関西瓦斯社長、東京月島鉄工所社長、東洋電機製造社長、東京石川島造船所(現IHI)社長、第7代帝国鉄道協会会長などを歴任した大人物、さらに、生後まもなく養子としてもらった先の養父 朝比奈林之助(1869-1923)氏は鉄道院理事であったため、高文に落ちて鉄道省への入省が叶わなかった朝比奈さんは関係深い鉄道会社に勤めることになりました。そこで、電車の運転手、踏み切り番、盗電の査察、さらに阪急デパートでの販売員などを経験しましたが、2年後京大に学士入学したのち退社します。朝比奈さんは以下のように語っています。

よく皆さんが音楽に対する情熱とか、どうしてもやりたくてたまらないからと。そんなんじゃないけど、まあ好きは好きだったんでしょうね。大学を卒業して就職して、阪急をやめた時点ですることがなくなったんですよ。やめ方が非常に抽象的で、けんかしたわけでもクビになったわけでもない。いまだに会社に入ったりして遊んでますからね。大学にでも籍をおかないと会社をやめさせてくれそうもない。

文学部へ戻って、ほかに空きがなかったので哲学科へ入っちゃった。大学へ行ってみたら井上君がいる。お前もか、ってわけですよ。彼は放浪の青年、哲学なんか毛頭やる気がなくて。ぼくはOBで京大オーケストラのヴァイオリンを弾いてた。指揮者がメッテル先生。その影響が大きいですな。

『朝比奈隆のすべて 指揮生活60年の軌跡』、芸術現代社(1997) p.123より

朝比奈さんのその後も波瀾万丈で興味深いですが、「京機短信」中の記事ということで、京大関係の話題に焦点を当てて締めくくらせていただきます。前述の井上さんの文章から、[文藝春秋1962年12月号の『同級生交歓』](#)が見つかりましたので、文藝春秋社のご許可をいただいて、貴重な写真と文章を転載します。(なお、文藝春秋の「日本の顔」の欄には、井上さんと朝比奈さんが、それぞれ1970年8月と1979年6月に取り上げられてもいます。)



左から朝比奈さん、井上さん、古谷さん

毎日新聞論説委員 古谷 綱正  
 作家 井上 靖  
 指揮者 朝比奈 隆

私たちは同級生らしい 無責任ないい方だが 学生時代は三人ともおたがいに顔を知らなかった そのころ(昭和八年)の京大文学部美学専攻は 一学級六 七人のはずだから われながらあきれた話である 朝比奈君は当時すでに音楽学校の教師もしていたためだし 私は芝居のまねごとにつつつを抜かしていた 井上君はただ怠けたのだというが サンデー毎日の懸賞小説で千円せしめたりしているから そっちの方が忙しかったのかもしれない 朝比奈君が 知らない人に話しかけられ それが試験を受かったばかりの講師だったり 井上君が 三年のとき主任教授の植田寿蔵先生に初対面のあいさつをしたとか 珍談はいくらでもある それでもちゃんと卒業したのだから “良き時代” だったのだろう もっとも私たち三人とも 植田先生とは深い人間的つながりを持ったと信じている 単位を集めただけの卒業とは 違うという自負はある(古谷綱正)

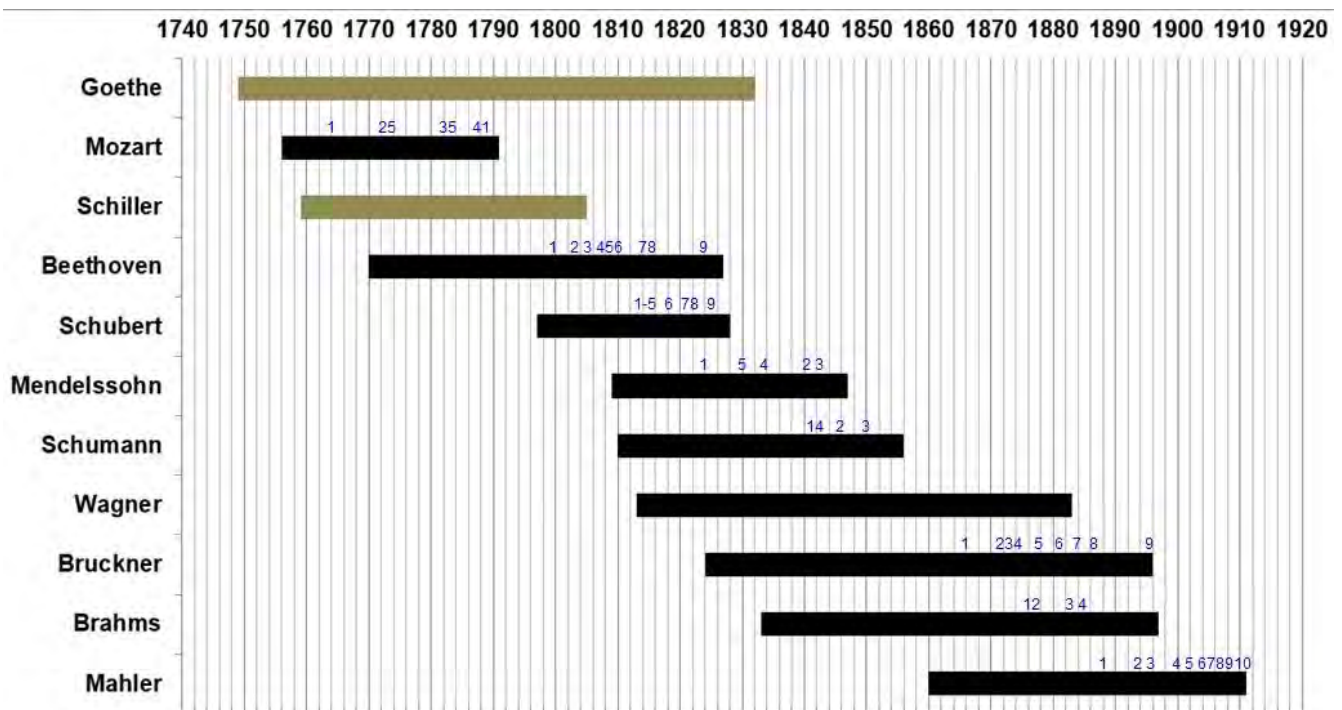
確かに “良き時代” だったんだと羨ましくもなりますね。

## 参考文献

- (1) 朝比奈隆、『楽は堂に満ちて』、日本経済新聞社(1978)、中央公論社(1995)、音楽之友社(2001)
- (2) 響敏也、『親父の背中にアンコールを 朝比奈隆の素顔の風景』、大阪書籍(1985)
- (3) 木之下晃、『朝比奈隆 長生きこそ、最高の芸術』、新潮社(2002)
- (4) 岩野裕一、『朝比奈隆 すべては「交響楽」のために』、文藝春秋(2008)
- (5) 中丸美繪、『オーケストラ、それは我なり 朝比奈隆 四つの試練』、文藝春秋(2008)、中公文庫(2012)、現在はKindle版あり
- (6) 渡辺佐(たすく)、『オーストリア辺境の旅』、サンライズ出版(2010)、現在はKindle版あり〔本書のオリジナルは、『聖フロリアンの鐘—大阪フィル欧州公演の記録』、第一法規版(1977)で、その新訂・一部削除・増補版となっています。〕

## 追記

朝比奈さんはドイツ系、とりわけベートーヴェン・ブルックナー・ブラームスをよく演奏しました。そこで、古典派からロマン派にかけての主な作曲家とその交響曲の作曲時期をおおよその位置に示します。



朝比奈さんのブルックナーは最高とも言われます。なかでも1975年10月12日、大阪フィルハーモニー交響楽団が、オーストリアのリンツ郊外にある聖フロリアン修道院(大オルガンの下の地下聖堂にブルックナーが眠っています [https://en.wikipedia.org/wiki/St.\\_Florian\\_Monastery](https://en.wikipedia.org/wiki/St._Florian_Monastery))で交響曲第7番(上図からも分かるようにブルックナーが敬愛するワーグナーが亡くなったところに作曲され、第2楽章はワーグナーへの「葬送音楽」とされています)を演奏したときのことです。渡辺佐さんの著書(6)から抜粋しましょう。

定刻より約一五分遅れて、朝比奈のタクトが動いた。(中略)第一楽章の終わったところで、数人、あるいは十数人が拍手をした。長大なこの楽章を一曲の終りと勘ちがしいとは思えない。感に堪えかねての拍手であつたらうか――。

第二楽章。(中略)悲哀に沈む旋律が宗教的な慰めを得て、消え入るような二つのピッチカートで息を止めた。朝比奈は次の楽章へ移ろうとして、タクトを上げかけた。その瞬間である。

鐘楼の鐘が低く重く鳴った。長い余韻を残して、あたかも前の楽章の音楽の続きであるかのように響いた。一つの鐘が消えて、朝比奈の体がかすかに動こうとした時、また一つの鐘が鳴った。そこで朝比奈は、それが五時の時鐘であることに気付き、手を下ろした。

まさに、天恵とでもいうべき奇蹟であった。偶然はいくつか重なっていた。開演の遅れ、第一楽章のあとの戸惑いがちな拍手、それらがなければ、演奏中に鐘は鳴ったはずであった。(中略)

その時、聖フロリアン修道院の大理石の広間に居合わせた大阪フィルの一〇〇人と、オーストリアの聴衆の約六〇〇人は、夕闇の迫る中で、ひとときの静寂に息をのみ、ひとしく鐘の響きに聞き入ったのであった。

中丸さんの著書(5)でも、「朝比奈がタクトを上げかけた瞬間である。鐘楼から五時をつげる鐘の音が響いてきた。それは、地下から沸き上がってきたブルックナーの意志をしめす奇跡のように感じられた」と感銘深く表現されています。なお幸いにも、このときの演奏は昨秋に最新マスタリングされたCDでも聴くことができます。鐘の音は耳を澄ませば“かすかに”聞こえる程度ですが、確かに深い感動を覚えます。



(ミュンヘンとウィーンの直線距離は350 km。ミュンヘン・ザルツブルク・リンツ・ウィーンが、東西方向に100 km程度の間隔で並んでいることが分かります。)

朝比奈さんには、さらにベートーヴェンの音楽でも感銘深いことがおこります。朝日新聞の天声人語は2000年12月31日、朝比奈さんを話題としています。「おととい、朝比奈さんは大阪のフェスティバルホールで、ベートーヴェンの第九交響曲を指揮した。演奏は大阪フィルハーモニー交響楽団。素晴らしい出来で、客席を埋めた二千七百人が湧いたようだ。第九を振ったのはこれで二百五十回目、現在九十二歳である。」続く12月30日も第九で二百五十一回目でした。しかし、2001年が明けて21世紀を迎え、朝比奈さんも九十三歳になった10月24日に名古屋で行った演奏会の翌日に入院、このため12月29日の朝比奈さんにとって二百五十二回目となるはずだった第九の演奏会は、若杉弘さんによる代理指揮で行われました。木之下さんの著書(3)によると、「朝比奈さんは、演奏が第三楽章からフィナーレに入る夜八時頃に危篤となり、演奏会が終わって間もない午後十時三十六分、ついに旅立たれた」とのことです。木之下さんは次のように結んでいます。「朝比奈さんは、世を去るその最期の日まで、指揮者として現役を貫いたのであった。」

## 付録

### 井上靖全集（新潮社、1995-2000）総目次

(編集人新規作成:ルビや補足箇所などは藍色字に、三高・京大・京都関係で気付いた箇所は赤字にしました。抜けや間違いがあると思いますので、お気付きの場合は [sakura@hideoyoshida.com](mailto:sakura@hideoyoshida.com) までご一報いただければ幸いです。)

第1巻	第2巻	かしわんば.....347	第3巻	滝へ降りる道.....366
北国.....21	比良のシャクナゲ.....7	表彰.....356	ある愛情.....9	夏花.....374
地中海.....45	漆胡樽.....33	勝負.....366	ある自殺未遂.....19	晩夏.....392
運河.....63	人妻.....50	山の湖.....374	七夕の町.....34	海浜の女王.....402
季節.....79	踊る葬列.....51	利休の死.....397	ある偽作家の生涯.....45	頭蓋のある部屋.....403
遠征路.....99	岬の絵.....70	潮の光.....407	二枚の招待状.....76	美也と六人の恋人.....417
乾河道.....125	あすなろう.....77	傍観者.....429	昔の愛人.....101	断崖.....437
傍観者.....169	断雲.....93	百日紅.....453	梧桐の窓.....112	山の少女.....459
星闌干.....207	七人の紳士.....105	澄賢房覚書.....463	鶉.....125	爆竹.....472
拾遺詩篇.....251	流星.....123	大いなる墓.....493	薄氷.....134	再会.....479
謎の女(続篇).....349	早春の墓参.....134	夜明けの海.....506	楼門.....144	ある日曜日.....481
夜霧.....358	星の屑たち.....152	斜面.....526	北の駅路.....156	石の面.....498
三原山晴天.....362	死と恋と波と.....173	小鳥寺.....537	貧血と花と爆弾.....168	燃ゆる緋色.....507
初恋物語.....383	二分間の郷愁.....195	玉碗記.....548	桶狭間.....205	青い照明.....520
紅荘の悪魔たち.....403	石庭.....198	三ノ宮炎上.....565	氷の下.....219	黄いろい帽子.....529
霰の街.....423	波紋.....209	秘密.....590	楕円形の月.....234	風わたる.....532
あすなろう.....431	雷雨.....228	古九谷.....595	小さい旋風.....246	騎手.....544
戦友の表情.....434	碧落.....246		千代の帰郷.....261	春寒.....556
母の手.....437	黄色い鞆.....257		白い手.....272	天目山の雲.....570
旧友.....439	舞台.....275		仔犬と香水瓶.....288	春のうねり.....586
めじろ.....442	銃声.....294		贈りもの.....307	伊那の白梅.....602
無声堂.....445	無蓋貨車.....311		海水着.....309	
ある兵隊の死.....448	年賀状.....313		青いボート.....311	
猟銃.....457	悪魔.....315		落葉松.....315	
闘牛.....495	結婚記念日.....329		水溜りの中の瞳.....327	
通夜の客.....541	蜜柑畑.....340		あげは蝶.....348	

<b>第4巻</b>	湖の中の川..... 576	<b>第5巻</b>	幽鬼..... 508	<b>第6巻</b>	
異域の人..... 7	白い街道..... 584	俘囚..... 9	青葉の旅..... 517	神かくし..... 9	
信康自刃..... 20	湖岸..... 598	ダム of 春..... 20	楼蘭..... 536	ある交友..... 20	
稻妻..... 36	篝火..... 606	川の話..... 33	川村権七逐電..... 566	故里の海..... 34	
末裔..... 45		真田軍記..... 50	平蜘蛛の釜..... 579	梅林..... 41	
みどりと恵子..... 72		颱風見舞..... 93	一年契約..... 595	ハムちゃんの正月.. 49	
野を分ける風..... 90		夏の雲..... 103		とんぼ..... 57	
大洗の月..... 111		ざくろの花..... 122		凍れる樹..... 66	
漂流..... 122		初代権兵衛..... 133		洪水..... 91	
湖上の兎..... 141		紅白の餅..... 153		面..... 105	
グウドル氏の手套 152		梅..... 165		冬の来る日..... 117	
少年..... 163		あした来る人..... 168		街角..... 132	
信松尼記..... 167		その人の名は言えな い..... 171		馬とばし..... 140	
僧行賀の涙..... 184		どうぞお先に..... 174		春の入江..... 149	
森蘭丸..... 198		火の燃える海..... 189		北国の春..... 167	
驟雨..... 219		蘆..... 206		狼災記..... 180	
ひとり旅..... 228		暗い舞踏会..... 219		考える人..... 196	
その日そんな時刻 241		レモンと蜂蜜..... 235		補陀落渡海記..... 214	
昔の恩人..... 286		夏草..... 247		海の欠片..... 232	
胡桃林..... 295		高嶺の花..... 259		ローマの宿..... 244	
春の雑木林..... 321		孤猿..... 270		小髻梯..... 260	
赤い爪..... 334		波の音..... 277		訪問者..... 277	
柰さん..... 352		司戸若雄年譜..... 288		晴着..... 285	
青いカフスポタン... 355		ある関係..... 296		岩の上..... 295	
花粉..... 358		ある旅行..... 306		菊..... 304	
鮎と競馬..... 371		良夜..... 320		故里美し..... 315	
殺意..... 386		犬坊狂乱..... 332		色のある間..... 325	
父の愛人..... 397		トランプ占い..... 346		フライイング..... 339	
風..... 407		佐治与九郎覚書... 361		加芽子の結婚..... 356	
夜の金魚..... 413		屋上..... 370		古い文字..... 365	
錆びた海..... 423		高天神城..... 380		裸の梢..... 390	
チャンピオン..... 439		四つの面..... 390		夏の焰..... 400	
投網..... 472		夏の終り..... 401		明るい海..... 407	
合流点..... 480		ある女の死..... 410		見合の日..... 420	
姨捨..... 497		別れの旅..... 423		別れ..... 434	
二つの秘密..... 511		冬の外套..... 446		明妃曲..... 445	
天正十年元旦..... 530		ボタン..... 454		あかね雲..... 465	
帰郷..... 536		奇妙な夜..... 463		僧伽羅国縁起..... 472	
風のある午後..... 543		満月..... 473		城あと..... 479	
黙契..... 555		花のある岩場..... 488		宦者中行説..... 497	
失われた時間..... 564				羅刹女国..... 508	

土の絵.....517	<b>第7巻</b>	ほくろのある金魚..603	<b>第8巻</b>	楊貴妃伝.....411
監視者.....525	<b>短篇</b>	ひと朝だけの朝顔 605	流転.....7	風濤.....573
塔二と弥三.....531	わが母の記.....9	三ちゃんと鳩.....607	その人の名は言えな	
ローヌ川.....540	永泰公主の頸飾り..97	猫がはこんできた手	い.....69	<b>第16巻</b>
富士の見える日...550	褒姒(ほうじ)の笑い112	紙.....610	黯い潮.....231	夏草冬濤.....7
冬の月.....561	墓地とえび芋.....119		白い牙.....325	後白河院.....407
眼.....572	魔法の椅子.....129		戦国無頼.....431	おろしや国酔夢譚 509
	テペのある街にて 136			
	帽子.....153		<b>第9巻</b>	<b>第17巻</b>
	古代ペンジケント..161		青衣の人.....7	化石.....7
	胡姫.....179		暗い平原.....139	夜の声.....455
	魔法壘.....187		あすなろ物語.....197	西域物語.....611
	崑崙の玉.....194		昨日と明日の間...301	
	海.....215		風林火山.....525	<b>第18巻</b>
	四角な石.....222			わだつみ.....7
	アム・ダリヤの水溜り		<b>第10巻</b>	
	.....234		あした来る人.....7	<b>第19巻</b>
	聖者.....245		淀どの日記.....277	額田女王.....7
	風.....261		満ちて来る潮.....521	北の海.....297
	鬼の話.....270			
	桃李記.....290		<b>第11巻</b>	<b>第20巻</b>
	壺.....307		黒い蝶.....7	櫛の木.....7
	道.....316		射程.....173	四角な船.....235
	二つの挿話.....328		氷壁.....399	星と祭.....499
	ダージリン.....335			
	セキセイインコ.....359		<b>第12巻</b>	<b>第21巻</b>
	川の畔り.....366		天平の薨.....7	流沙.....7
	炎.....388		海峡.....105	
	ゴー・オン・ボーイ.400		敦煌.....285	<b>第22巻</b>
	石濤.....412		蒼き狼.....421	幼き日のこと.....7
	生きる.....425			本覚坊遺文.....119
			<b>第13巻</b>	孔子.....223
	<b>戯曲</b>		渦.....7	
	明治の月.....443		しろばんば.....365	
	就職圏外.....457			
			<b>第14巻</b>	
	<b>童話</b>		崖.....7	
	星よまたたけ.....477		憂愁平野.....543	
	銀のはしご.....563			
	どうぞお先きに！.599		<b>第15巻</b>	
	くもの巣.....601		城砦.....7	



<b>第23巻</b>	父のこと..... 176	青春の粒子..... 245	私と毎日会館..... 300	私の洋画経歴..... 529
私の自己形成史..... 17	あすなろのこと..... 177	千本浜に夢見た少年	ハトとAさん..... 300	今年のプラン..... 531
忘れ得ぬ人々..... 45	三つの海..... 179	の日々..... 246	杉さんのこと..... 302	勝手な夢を二つ..... 531
過ぎ去りし日日..... 71	風の話..... 180	金井君の詩を読んで	竹本辰夫君のこと 303	作家の日記..... 532
＊	ほんとうのライスカレ	..... 247	勇気あることば..... 304	白い手の少女..... 534
[旭川]	一..... 182	沼津とわたし..... 248	法隆寺のこと..... 305	趣味ということ..... 535
旭川・伊豆・金沢... 123	新緑と梅雨..... 184	記念誌刊行にあたつ	中国山脈の尾根の村	正月の旅..... 541
出生地の話..... 125	天城の粘土..... 185	て..... 252	..... 306	私の一日..... 542
北海道の春..... 126	「しろばんば」..... 187	ああ沼津中学！... 253	「サンデー毎日」と私	「ピクニック」を観る
すずらん..... 127	土蔵の窓..... 187	[大正十五年書簡] 254	..... 309	..... 544
[湯ヶ島]	わさびの故里..... 188	[金沢]	夕暮の富士..... 310	某月某日..... 546
雑木林の四季..... 128	故里美し..... 190	金沢の正月..... 258	酒との出逢い..... 314	講道館..... 546
都会と田舎..... 129	容さざる心..... 191	あんころ..... 259	辻さんと私..... 316	季節の言葉..... 550
龍若の死..... 130	思い出すままに... 194	私の石川県時代... 260	毎日新聞と私..... 317	夏の終り..... 551
伊豆の食べもの... 132	天城湯ヶ島..... 205	井戸と山..... 263	終戦の放送 陛下を	東京という都会..... 552
子供の正月..... 133	七歳の時の旅..... 206	弔辞..... 265	身近に..... 318	樹木の美しさ..... 554
湯ヶ島..... 134	故里の富士..... 208	五陵の年少..... 266		団体旅行者..... 555
郷里のこと..... 137	幼い日々影絵... 209	五陵の年少..... 267	<b>随想</b>	山登りの愉しみ..... 556
らくがん..... 139	故里の家..... 210	四十年目の柔道着	わが一期一会..... 323	私の登山報告..... 558
故里の鏡..... 141	わさび美し..... 211	..... 268	四季の雁書..... 453	映画「遭難」を見る 560
母を語る..... 143	[沼津]	「オロチヨンの挽歌」讃	＊	大阪駅付近..... 561
幼時の正月..... 146	わが青春放浪..... 212	..... 271	秋の夜..... 503	ひばの木..... 562
故郷への年賀状... 148	人と風土..... 220	私の四高時代..... 272	近くに海のある風景	季節の言葉 五月 564
子供と風と雲..... 148	試験について..... 226	思い出多き四高... 273	..... 503	夏の初め..... 565
ふるさと一伊豆一 149	わが青春記..... 228	[京大]	水仙のはなし..... 505	旅のこと..... 565
私の味覚..... 151	赤い林檎..... 230	弘前の思出..... 275	あすなろう..... 507	遠雷..... 566
貫く実行の精神... 153	前田先生のこと... 231	十二段家..... 276	日記..... 508	皇太子よ、おめでとう
子供の頃..... 154	「むらさき草」の著者	龍安寺石庭..... 277	永平寺の米湯..... 509	..... 574
故里の山河..... 156	..... 232	仁和寺の楼門..... 279	アメリカ文化..... 510	養之如春..... 575
郷里伊豆..... 157	我が十代の思い出	四季の石庭通い... 280	学校給食のこと... 512	海の元旦..... 576
故里の子供たち... 161	..... 234	九鬼教授のこと... 282	某月某日..... 513	石と木と..... 576
ふるさとの正月... 161	静岡の思い出..... 235	[毎日新聞社]	僕にかわって..... 514	才能 あなたの新しい
天城の雲..... 162	千本浜のこと..... 237	「サンデー毎日」記者	登山愛好..... 515	首途に... .. 578
湯ヶ島小学校..... 164	私の愛することば 238	時代..... 285	講演旅行スナップ 517	穂高の犬..... 579
故里の家..... 165	青春のかけら..... 238	学芸部..... 290	講道館の寒稽古... 518	感じたこと二つ..... 581
匂い..... 167	中学時代の友..... 239	老兵..... 292	父の願い..... 520	山なみ美し..... 582
天城に語ることなし	たのしかった国語の	「創造美術」の誕生	新聞記者というもの	秋索々..... 583
..... 169	時間..... 241	..... 293	..... 521	新聞記..... 584
幼いころの伊豆... 170	針金の欠片と夕暮の	日記から..... 294	京に想う..... 525	養之如春 I..... 586
私のふるさと..... 171	富士..... 242	二十年..... 298	某月某日..... 526	山へ行く若者たちに
台風..... 174	わが青春の日々... 244	鳩..... 299	クリスマス・イブ東京... 527	..... 587

冬を讃う..... 589	神かくし..... 648	点は墜石の如く..... 703	月光しるき夜..... 769	<b>第24巻</b>
某月某日..... 590	還暦有感..... 650	贅沢な時間..... 704	手術で得た天命への	<b>作家・作品論</b>
山の美しさ..... 591	切り棄てよ..... 651	天然の林美し..... 705	理解..... 771	[萩原朔太郎]
高い星の輝き..... 593	正月三ケ日..... 652	落葉しきり..... 706	天命について..... 772	詩人との出会い..... 19
私の辞書..... 595	年の初めに..... 653	冬の朝..... 708		[萩原朔太郎初版本
新しい政治への期待	異国で考える日本..... 655	去年・今年..... 710		翻刻版]推薦文]..... 21
..... 596	駒場の春..... 657	一本の長い道..... 713		「郷土望景詩」讃..... 21
今日このごろ..... 598	切りすてよ..... 658	雪の宿..... 714		[北原白秋]
人生の智慧..... 601	私のゴルフ..... 659	だんらん団梨..... 715		名作かんしょう..... 23
二つのブービー賞..... 601	生命の問題..... 660	雪月花..... 717		[堀口大學]
料理随筆..... 604	ゴルフ..... 662	きれい寂び..... 719		堀口先生のこと..... 25
人間を信ずるとい	一年蒼煌..... 663	永遠の信頼樹立を		[三好達治]
と..... 605	陽光輝く辿跡を訪ね	..... 726		「測量船」と私..... 28
道 道 道..... 607	る..... 665	柔道の魅力..... 728		三好達治の「冬の日」
父として想う..... 609	少年老いやすし..... 666	年の初めに..... 729		..... 29
けやきの木..... 614	文化の氾濫..... 667	カラヤン讃..... 730		[丸山薫]
若木とびょうぶ..... 615	これを養う春の如し	日本独自の美しさ..... 732		二つの詩集..... 31
北海のフグ..... 616	..... 668	年の初めに..... 733		丸山薫の詩..... 32
富士の話..... 619	職人かたぎ その他	自分の見方で物を見		[草野心平]
私の文学碑..... 620	..... 669	る..... 736		草野心平・讃..... 35
猫の話..... 622	旅で会った若者..... 670	人生の滑り台..... 737		草野さんのこと..... 36
断絶..... 624	万国博開会式を見て	旅行..... 739		[金子光晴]
少年に与える言葉..... 625	..... 673	年頭に思う..... 740		金子光晴氏の詩業..... 37
四角な箱の中で..... 626	樹木美し..... 676	人生の階段..... 742		[安西冬衛]
私のビジョン..... 628	明窓浄机..... 677	養之如春Ⅱ..... 744		安西冬衛氏の横顔..... 38
三つの書齋..... 629	文化財の保護につい	集会へ寄せる..... 744		[北川冬彦]
ローマから東京へ..... 630	て..... 679	四十五歳という年齢		詩集・北京郊外にて
オリンピック開会式を	孔子の言葉..... 681	..... 745		他..... 39
見る..... 632	幸福について..... 682	木枯..... 747		[竹中郁]
五輪観戦記..... 635	桃李の季節..... 685	小寒、大寒..... 748		詩人 竹中郁氏..... 40
たくまざる名演出..... 636	言葉の生命..... 687	春寒..... 748		詩集 ポルカ マズル
私のさかな..... 638	日本のことば・日本の	ひまわり..... 749		カ..... 42
人生の階段..... 638	こころ..... 689	七十五歳の春..... 749		[小野十三郎]
初孫讃..... 640	六十六段目の展望	好きな言葉..... 751		拒絶の木..... 42
ゴルフ..... 641	..... 690	四季それぞれ..... 759		生粋の詩、生粋の詩
旅の効用..... 642	けやき美し..... 691	古稀の旅..... 762		人の魅力..... 43
旅先からの便り拝見	無形遺産三つ..... 693	己れを尽くす..... 763		[伊東静雄]
..... 643	時計とカメラ..... 695	喜寿の年..... 764		伊東静雄の詩..... 44
お話を集めて歩く..... 644	ものを考える時間..... 698	現代史の記述者..... 766		「夏の終」解説..... 45
還暦有感..... 645	中国の文化財保護	年の初めに..... 767		蟬のこえ..... 46
山美し 山恐ろし..... 647	..... 700	尽己..... 768		伊東静雄について..... 47

「伊東静雄全集」に寄 せて..... 48	解説..... 106	「盲目物語」と「蘆刈」 ..... 109	解説..... 192	[伊藤整]	「夜のリボン」推薦 文]..... 277
[真田喜七]	豪華で精巧な作品 ..... 110	芥川龍之介の「トロツ コ」..... 201	好きな短篇..... 202	[高見順]	解説..... 277
真田氏のこと..... 49	..... 110	芥川の短篇十篇... 203	「死の淵より」につい て..... 239	「死の淵より」につい て..... 239	舟橋氏の姿勢..... 280
真田喜七氏の作品 50	谷崎先生のこと..... 110	[菊池寛]	二冊の本..... 242	[岡本かの子]	新・忠臣蔵に期待する ..... 281
真田さんのこと..... 51	解説..... 112	「[菊池寛文学全集] 推薦文]..... 205	[岡本かの子]	丸子のとろろ汁..... 244	日本文の正統派... 282
「富士正晴」 富士正晴版画展..... 53	遺作として新たに読 み返したい..... 132	菊池さんのこと..... 205	[中島敦]	[中島敦]	弔辞..... 282
「[賈・久坂葉子伝]推 薦文]..... 53	「細雪」讚..... 133	[野上弥生子]	孤独な咆吼(ほうこう) ..... 248	[中島敦]	舟橋さんの人と作品 ..... 284
[清岡卓行]	「吉野葛」を読んで135	野上先生のこと..... 207	..... 248	[檀一雄]	石川五右衛門..... 286
芸術的な握手..... 54	[佐藤春夫]	野上さんのこと..... 208	中島敦全集全四巻に 寄せて..... 249	山月記..... 250	足跡に汚れない287
[森鷗外]	佐藤春夫..... 137	[川端康成]	山月記..... 250	ふしぎな光芒..... 251	[川口松太郎]
雁..... 55	晶子曼陀羅..... 138	川端康成の受賞... 210	ふしぎな光芒..... 251	ふしぎな光芒..... 253	川口さんと私..... 288
「追儺」その他..... 56	「悲壮美の世界」推 薦文]..... 139	川端さんのこと..... 212	「木乃伊」讚..... 253	「木乃伊」讚..... 253	[永井龍男]
解説..... 59	悲壮美の世界..... 140	晩年の川端さん... 213	[大佛次郎]	永井さんのこと..... 290	「青梅雨」その他... 292
[夏目漱石]	佐藤春夫全集につい て..... 141	川端さんの眼Ⅰ... 215	大佛さんの作品... 255	大佛さんの椅子... 256	[坂口安吾]
漱石の大きさ..... 65	「自選佐藤春夫全集」 第六巻解説..... 142	川端さんの眼Ⅱ... 216	大佛さんの椅子... 256	若き日の信長..... 258	信長..... 294
“猫”と私..... 66	佐藤春夫氏の「戦国 佐久」..... 145	「定本図録川端康成」 刊行のことば..... 217	若き日の信長..... 258	大佛さんと私..... 259	坂口さんのこと..... 295
[徳田秋声ほか]	わが北海道..... 147	鬱然たる大樹を仰ぐ ..... 218	大佛さんと私..... 259	「つきじの記」を読んで ..... 261	[和田芳恵]
解説..... 69	北海道の先生 二つ の句..... 148	「伊豆の踊子」につい て..... 218	「つきじの記」を読んで ..... 261	[吉川英治]	弔辞..... 297
[島崎藤村]	[「定本佐藤春夫全 集」推薦文]..... 149	「眠れる美女」を読む ..... 221	[吉川英治]	「私本太平記」推薦 文]..... 262	「和田芳恵全集」推 薦文]..... 298
解説..... 74	解説..... 149	短篇四つ..... 224	「私本太平記」推薦 文]..... 262	稀有な作品..... 263	[今官一]
藤村全集の意義..... 89	殉情詩集..... 169	掌の小説と装画集「四 季」より..... 228	稀有な作品..... 263	吉川さんのこと..... 263	今さんと私..... 299
[永井荷風]	「鷺江の月明」讚... 172	[横光利一]	[吉川英治全集]推 薦文]..... 265	「吉川英治全集」推 薦文]..... 265	野間宏..... 300
荷風の日記..... 90	「田園の憂鬱」を読む ..... 174	中野重治]	秋索索..... 265	秋索索..... 265	野間宏..... 300
[志賀直哉]	休息を知らなかった作 家..... 177	中野全集について229	吉川英治の仕事... 267	吉川英治の仕事... 267	小説への誘惑者... 302
志賀さんをいたむ... 94	解説..... 177	北京の中野さん... 230	永遠の未完成..... 268	永遠の未完成..... 268	野間宏氏のこと..... 304
一人でも多くの人に95	金沢の室生犀星... 189	中野さんの詩..... 232	丹羽さんの顔..... 271	丹羽さんの顔..... 271	一生消えぬ衝撃... 306
「スズメの誤解」..... 95	[室生犀星]	[梶井基次郎]	旅の丹羽文雄..... 272	旅の丹羽文雄..... 272	栄光と孤高の記録307
晩年の志賀先生..... 98	解説..... 177	小説の文章というもの —梶井基次郎と徳田秋声 —..... 234	[親鸞]推薦文]..... 273	[親鸞]推薦文]..... 273	[武田泰淳]
[谷崎潤一郎]	金沢の室生犀星... 189	[深田久弥]	文学の大河..... 274	文学の大河..... 274	愛と誓い..... 307
連載されるまで —「少 将滋幹の母」のエピソード —..... 100	[芥川龍之介]	深田久弥氏と私... 235	「海戦」讚..... 274	「海戦」讚..... 274	[福永武彦]
「谷崎潤一郎随筆選 集1」解説..... 101	宇治拾遺物語と芥川 の作品..... 190	[深田久弥]	[舟橋聖一]	[舟橋聖一]	風土..... 308
「吉野葛・盲目物語」 解説..... 103	の作品..... 190	深田久弥氏と私... 235	[舟橋聖一]	[舟橋聖一]	[由起しげ子]
「盲目物語・聞書抄」					「語らざる人」につい て..... 309
					[幸田文]

「みそっかす」について.....311	[亀井勝一郎]	石川啄木の魅力...369	講演 詩と私.....402	新潮と私.....466
[庄野潤三]	東洋の美の正しき理	啄木のこと.....369	挽歌について.....412	文芸時評.....467
愛撫.....312	解.....338	[島木赤彦]	万葉名歌十首.....415	文学開眼.....470
庄野潤三氏について.....313	出色の中国旅行記.....339	赤彦と私.....371	「きりん」の頃.....422	解釈の自由ということ —歴史小説家の手帳から
庄野潤三氏の短篇.....315	.....339	[若山牧水]	私のイメージ・名歌と	—.....472
[吉行淳之介]	亀井さんの言葉...340	若山牧水のこと...372	名画.....424	正確な文章.....473
[「吉行惇之介全集」	亀井さんのこと.....341	牧水のこと.....373	詩人としての江上さん	妊娠調節と特殊列車
推薦文].....317	[中島健蔵]	[「若山牧水全歌集」	.....425	.....474
「鞆の中身」について.....317	「点描・新しい中国」を	推薦文].....375	「風景」と私.....427	ご返事.....475
[有馬頼義]	読む.....343	牧水の魅力.....376	好きな詩.....428	新聞記者の十年...477
[「失脚」推隠文].....318	中島氏のこと.....344	[窪田空穂]	富士の歌—忘れがたい	立原章平氏へ.....478
[北杜夫]	中島健蔵氏のこと345	九十歳のりっぱさ..377	帰還兵の作—.....430	文章今昔.....479
「木精」を読んで...318	中島さんのこと.....347	[川田順]	ある感慨.....431	人間が書きたい...480
[立原正秋]	[高橋義孝]	幕末愛国歌.....378	わたしの一首.....432	作家生活八年目...481
立原正秋・二題.....320	高橋義孝氏のこと348	西行研究録.....379	今日の文学.....433	書きたい女性.....483
「立原正秋文学展」序.....323	[臼井吉見]	[生方たつゑ]	貼紙絵.....434	私の取材法.....484
八月の午後.....323	「安曇野」について350	[「生方たつゑ選集」推	質的にみた淋しさ.435	書き出し—自然に、素直
[司馬遼太郎]	「10冊の本」の頃...350	薦文].....380	たれか新聞記者を書	に—.....485
「殉死」私見.....315	[十返(とがえり)筆]	[「歌集 火の系譜」推	くものはないか.....436	書くべき何ものか..486
「ひとびとの登音(きょう	十返筆のこと.....352	薦文].....380	人生の始末書.....437	風景描写—現地へ行っ
おん)」について.....326	[山本健吉]	生方さんの仕事...381	作品の周囲.....438	てノートする—.....487
[山崎豊子]	大和山河抄.....353	推薦の言葉.....381	芥川賞を受けて...439	伊豆の風景.....488
「暖簾」について...327	山本氏との別れ...354	生方さんの仕事...382	二つの文学賞—永井龍	作家のノート.....489
いっきに読ませる面白	[江藤淳]	[「人生音痴」推薦	男氏へ—.....440	天風浪浪.....541
さ.....328	優れた伊東静雄論	文].....383	文学と私.....441	言葉について I ...542
[小林秀雄]	.....356	極北に立った鋭さ.383	「法王庁の抜穴」の面	直言に答える—篠田—
小林さんのこと.....329	[森田たま]	[角川源義]	白さ.....443	士氏へ—.....544
小林さんのこと.....330	森田さんのこと.....358	角川さんとゴルフ..384	小説は誰でも書ける	「蒼き狼」の周囲...545
[河上徹太郎]	[小泉信三]	月の人の.....386	か.....444	歴史小説の主人公
揚州に於ける河上氏.....332	「海軍主計大尉小泉	<b>文学エッセイ</b>	私の好きな作中人物	.....550
[中村光夫]	信吉)を読む.....359	大阪の星座.....391	.....447	王朝日記文学につい
旅の話.....334	[「小泉信三全集」推	私の詩のノートから	私の理想の女性...448	て.....552
「明治五年」について.....336	薦文].....361	.....392	壁を相手の新聞小説	自作「蒼き狼」につい
[石川啄木]	感銘深い小泉信三	「きりん」創刊のころ	.....450	て.....558
.....336	ん.....362	.....395	私と文壇.....453	言葉の話.....566
	「海軍主計大尉小泉	現代詩に望む.....397	締切り.....454	宝石と石ころ.....568
	信吉)を読んで.....364	「長恨歌」讃.....397	将来は芸術家に...456	文学を志す人々へ—
	[桑原隲蔵(じつぞう)]	「風景」と詩.....399	私の小説作法.....459	詩から小説へ—.....570
	桑原隲蔵先生と私366	私の好きな短歌一つ	小説とモデル.....463	「宇治十帖」私見...574
		.....401	作中人物.....465	小説の材料.....576

講演 小説について	感想..... 671	<b>第25巻</b>	新制作派展評..... 375	法隆寺のこと..... 423
..... 578	孔子の言葉..... 673	<b>美術エッセイ</b>	関西作家院展出品画	歴史のかけら—北斎と
言葉についてⅡ... 590	“負函”の日没—「孔子	美しきものとの出会い	展..... 376	法隆寺と—..... 428
芥川賞受賞の頃... 592	取材行—..... 674	..... 13	二科展評..... 377	法隆寺..... 429
作家生活十四年... 594	負函..... 682	カルロス四世の家族	青龍展を見る..... 378	わが愛するもの 法隆
文學界と私..... 595		—小説家の美術ノート—	時局解説 美術界の	寺..... 430
老舎先生の声..... 597	古典書と美術書... 691	..... 101	決戦体制..... 380	白鳳・天平の美..... 431
作家生活十六年... 598	私の愛読書..... 693	ゴッホの星月夜—小説	—水会展評..... 382	湖畔の十一面観音
「沙石集」を読んで600	私の読書遍歴..... 694	家の美術ノート—..... 149	新燈社展..... 383	..... 432
三つの作品..... 602	スケジュールをたてる	忘れ得ぬ芸術家たち	文展の日本画・洋画	春の十一面観音像
新春所感—忘れられぬ	..... 696	..... 201	..... 384	..... 434
文章—..... 604	古典への道しるべ—天	レンブラントの自画像	春の青龍社展..... 385	渡岸寺十一面観音像
文字 文字 文字..... 605	心の「茶の本」に大きな感	—小説家の美術ノート—	陸軍美術展..... 385	..... 435
N君のこと..... 607	銘—..... 697	..... 259	大日展評..... 386	十一面観音..... 436
講演 歴史と小説... 609	茶の本..... 698	*	新興美術協会展評	湖畔の十一面観音
明治の資料..... 617	英雄物語の面白さ—	関西日本画壇展望	..... 387	..... 444
講演 明治の風俗資料	「世界山岳全集」にふれて	..... 315	戦時文展を見る... 388	日本の彫刻 飛鳥時
..... 618	—..... 699	東京画壇展望..... 324	第二回京展評..... 389	代..... 446
千利休を書きたい 625	小林高四郎「ジンギス	院展評..... 335	日展の不人気..... 390	日本絵巻物全集第一
短篇の河原..... 626	カン」Ⅰ、Ⅱ..... 701	青龍展..... 338	院展日本画を観る 391	巻 源氏物語絵巻 447
講演 歴史小説と史実	ふたつの作品..... 703	文展評..... 340	青龍社展評..... 392	ノートから..... 448
..... 629	自分で選ぶ喜び... 704	伝統について..... 343	美術断想..... 393	<b>龍安寺の石庭..... 450</b>
正確な言葉..... 640	読書について..... 705	青龍社展評..... 347	行動美術展評..... 397	わが家の「蘭疇」... 451
作家七十歳..... 641	遠い読書の思い出	作家の誠実..... 348	二科展評..... 398	私の東大寺..... 454
枯れかじけて寒き 643	..... 707	奉祝展日本画評... 352	日展を見る..... 399	作家の関心..... 459
私の文章修業..... 646	読書のすすめ..... 708	無名仏讃..... 354	日本画の新人群... 401	明治の洋画十選... 461
郭沫若先生のこと 649	必読の書..... 709	院展・青龍展所感 357	純美術家の工芸品製	日本の伝統工芸の美
歴史小説と私..... 650	私にとっての座右の	春の青龍社展..... 360	作..... 402	しさ..... 466
日本文化の独自性	書..... 710	小西謙三氏油絵展	日本画と額縁..... 403	おしゃれな観音さま—
..... 651	三冊の本..... 714	..... 360	現実遊離の画境... 403	室生寺十一面観音像—
巴金先生へ..... 656		乾坤社展をみる... 361	連合展を見る..... 405	..... 467
私のライフ・ワーク 658		院展と青龍展..... 362	院展評..... 406	日本国宝展を見て 468
いまの日本人を見て		院展私観..... 364	院展を見る..... 407	美しいものとの取引き
頂きたい—フランシス・キ		文展評 日本画... 366	創造美術展を見る 407	..... 470
ング氏への返書—..... 661		大東亜戦争美術展を	美術記者..... 408	虚空の庭..... 471
煎風の五月—国際ベン		見る..... 367	美しきものとの出会い	いつでも小さい像に光
大会に寄せて—..... 663		春の美術展から... 368	..... 411	が..... 477
中央公論社と私... 664		春陽会展評..... 370	竹竹竹..... 417	唐招提寺・ノート... 478
巴金先生と私..... 666		国展評..... 371	手帳..... 419	大きな宝石箱..... 480
講演 共存共栄の哲学		美術の鑑賞..... 372	好きな仏像..... 421	「沖縄の陶工 人間国
..... 668		青龍展評..... 374	如来形立像..... 422	宝 金城次郎」序... 483

人間文化財への熱情 ..... 484	旅の平山さん..... 535	いる美術..... 573	セザンヌ「壺の花」622	利休と親鸞..... 686
「鉄斎の仙境」など487	平山さんのこと..... 535	肯定と否定..... 574	女性に神を見出した 時代..... 623	天武天皇..... 687
梅華書屋図..... 490	「平山郁夫全集2 歴 訪大和路」序..... 537	書の国・中国..... 576	青く大きな空..... 624	「観無量寿経」讚... 708
関雪を悼む..... 492	「平山郁夫シルクロー ド展」によせて..... 538	豪華絢爛たる開花577	モナ・リザ私見..... 626	歴史に学ぶ..... 709
関雪追想..... 493	加山又造展図録序文 ..... 539	「明清工芸美術展」に 寄せて..... 579	ミレーの「晩鐘」につ いて..... 628	私の中の日本人—親 鸞と利休—..... 713
橋本関雪生誕百年の 展覧会に寄せて... 495	加山又造氏の仕事 ..... 540	澄んだ華麗さ..... 580	レンブラントの「老ユ ダヤ人の肖像」につ て..... 629	船のこと港のこと... 716
<b>須田国太郎のこと—嵐 山の遅桜—..... 496</b>	協田和氏の作品... 542	「漢唐壁画展」を見て ..... 581	“天命”秘めた団欒の 美しさ..... 630	持統天皇..... 717
<b>須田国太郎の「野薔 薇」..... 500</b>	西山英雄氏のこと 546	長信宮灯について581		西行と利休..... 729
福井良之助氏のポエ ジー..... 501	西山さんのお仕事 547	「韓国美術五千年展」 を見て..... 582		利休の人間像..... 732
高山辰雄氏のポエジ ー..... 502	西山さんのお仕事 547	回教寺院、その他 585		遺跡とロマン..... 733
聖家族 讚..... 504	福田さんのこと..... 548	「敦煌壁画写真展」に 寄せて..... 591	<b>歴史エッセイ</b>	歴史の顔..... 738
上村松篁展の意味 ..... 505	三岸節子展に寄せて ..... 549	加彩騎馬武士俑... 593	中尊寺と藤原四代635	
上村松篁氏と私... 508	三岸さんの独自なこ ろ..... 551	「古代エジプト展」を見 て..... 594	戦国時代の女性... 636	
東山魁夷氏の「窓」 ..... 510	舟越さんのこと..... 553	雲岡・菩薩像..... 596	遣唐船のこと..... 638	
東山魁夷氏の作品 ..... 512	秋野さんのこと..... 554	敦煌千仏洞点描... 597	日本の英雄..... 640	
「瑞光」の前に立ちて ..... 514	青邨先生のこと..... 555	敦煌莫高窟の背景 ..... 603	茶々の恋人..... 641	
「行く秋」の前に..... 515	河井寛次郎論..... 557	序・敦煌の美術..... 607	戦国時代の女性... 643	
近藤悠三氏のこと 516	杉本健吉「新平家・画 帖」上..... 558	敦煌一三〇窟の弥勒 大仏像..... 608	木乃伊考..... 649	
[近藤悠三作陶五十 年近作展推薦文] 520	島田謹介写真集「旅 窓」..... 559	中国文物展ノートから ..... 610	武将の最期..... 652	
近藤さんのこと..... 520	画家になった美術記 者..... 560	西域・千年の華..... 614	鑑真和上のこと..... 653	
生沢氏の仕事..... 522	秋山さんの仕事... 562	高官の生活風景を描 いた壺..... 615	古代説話のこころ 655	
[生沢朗個展推薦 文]..... 523	塔..... 562	二十周年を慶ぶ... 616	「鑑真和上」「鑑真」 ..... 657	
生沢朗氏と私..... 523	土門拳の仕事..... 565	アンリ・ルソーの「人形 を持てる少女」につ て..... 617	絵巻物による日本常 民生活絵引..... 659	
[生沢朗水墨画展推 薦文]..... 525	入江泰吉「古色大和 路」..... 567	「かたまり」とリズム— イタリア現代彫刻展を観る —..... 618	茶々のこと..... 660	
平山郁夫氏の道... 525	小山富士夫編「中国 名陶百選」..... 569	二つの主題..... 619	千利休..... 662	
平山郁夫氏と一緒の 旅..... 530	ナゾの古代都市—パキ スタン古代文化展をみて— ..... 570	ゴヤについて..... 620	モラエスのこと..... 666	
平山郁夫氏のこと 533	白瑠璃碗..... 571	ドガ「少女像」..... 622	ゴンチャロフの容貌 ..... 673	
	死せる遺跡と生きて		明治五年..... 675	
			戦国時代の天正十年 ..... 677	
			仏教讃歌「親鸞」のこ と..... 679	
			讃歌 親鸞..... 681	
			叙事詩的世界の魅力 ..... 684	

第26巻	石山寺のこと..... 129	九月の風景..... 210	み..... 499	行の来日を喜ぶ..... 562
日本紀行	湖畔の城..... 130	街..... 211	遺跡保存二、三..... 500	北京の正月..... 563
穂高の月..... 13	大津美し..... 130	天竜川の旅..... 212		廖(りょう)承志先生
梓川的美しさ..... 15	大津美し..... 133	旅のノートから..... 215	中国の旅から..... 503	の逝去を悼む..... 564
上高地..... 17	仁和寺..... 134	信濃川と私..... 216	世界の大きな星は落	胡耀邦総書記の来日
穂高行..... 19	冬の京都..... 135	正月の旅..... 218	ちた..... 519	を歓迎する..... 566
滝谷を見る..... 22	京の春..... 137	美しい川..... 220	充実した二十年..... 520	葵丘会議の跡を訪ね
ただ穂高だけ..... 23	塔..... 142	忘れ得ぬ村..... 222	大きく、烈しく、優しく	て..... 567
登山..... 25		私の好きな風景..... 224	..... 522	葵丘と都江堰..... 569
沢渡部落..... 27	北国の城下町—金沢—	旅情..... 233	明るくなった国..... 523	中国の友人の皆さん
残したい静けさ美しさ	..... 145	川の話..... 235	雲崗石窟を訪ねて..... 527	の来日を歓迎して..... 570
..... 28	金沢城の石垣..... 146	一文字の風景..... 236	春風吹万里..... 528	朱穆之文化相の来日
豪雨の穂高..... 29	早春の甲斐・信濃..... 147	千曲川..... 239	敦煌の旅..... 530	を歓迎して..... 571
梓川沿いの樹林..... 32	紀の国・伊豆・信濃	「旅と人生」について	文芸復興期の中国	中華人民共和国建国
穂高美し..... 36	..... 149	..... 240	..... 532	三十五周年を祝って
穂高の紅葉..... 38	薄雪に包まれた高山	旅情・旅情・旅情..... 246	新たな信頼と信義の	..... 572
風の奥又白..... 39	の町..... 151	日本の風景..... 252	関係..... 539	年頭にあたって..... 574
新隆浩作品集「穂高」	早春の伊豆・駿河..... 153	川と私..... 257	周揚先生を団長とす	告別の辞..... 575
序..... 41	伊豆生れの伊豆礼讃		る中国作家代表団の	創立三十周年を迎え
穂高..... 44	..... 157	外国紀行	来日を喜ぶ..... 540	て..... 577
初冬の大雪山..... 45	北尾鐮之助「富士箱	異国の旅..... 261	楽しい充実した二十	中国文明ゆりかごの
大佐渡小佐渡..... 45	根伊豆」..... 160	河岸に立ちて—歴史の	日間..... 541	地を訪ねて..... 578
佐渡の海..... 61	富士美し..... 161	川 沙漠の川—..... 375	黄河の流れ..... 542	二十五回目の訪中
岩手県の鬼剣舞..... 64	夜叉神峠..... 163	*	長城と天壇..... 543	..... 579
雪の下北半島紀行..... 66	私の高野山..... 168	東京の敦煌..... 475	最も幸せな作品..... 546	新しい年の始めに..... 580
平泉紀行..... 72		広州のこと..... 477	新たな発展の年..... 546	王蒙文化相の来日を
	瀬戸内海的美しさ..... 175	黄色い大地..... 478	大黄河..... 548	歓迎して..... 581
私の東大寺..... 89	佐多岬紀行—老いたる	中国は大きい..... 480	胡楊の夜..... 550	「中日文化賞」を受賞
奈良と私..... 92	駅長と若き船長—..... 176	中国散見..... 482	桂林讃..... 551	して..... 582
飛鳥の地に立ちて..... 98	沖縄の一週間..... 192	井上靖・中国カメラ紀	会長就任に当って..... 553	年頭にあたって..... 583
大和路たのし..... 102	沖縄の印象..... 195	行..... 483	年頭の言葉..... 554	敦煌の歴史を知って
二月堂お水とり..... 104	沖縄のところにふれる	四年目の中国..... 484	創立二十五周年を迎	ほしい..... 584
お水取りと私..... 104	..... 196	中国の旅—鑑真逝世千	えて..... 555	年頭にあたって..... 585
お水取り・讃..... 112	南紀の海に魅せられ	二百年記念行事—..... 486	私と南京..... 556	周揚さんを悼む..... 586
大和朝廷の故地を訪	て..... 197	旧知貴ぶべし..... 489	年頭に当たって..... 558	新しい年の始めに..... 587
ねて..... 114	海..... 199	揚州の雨..... 490	鳴沙山の上に立ちて	中国人民対外友好協
美しい囃の管—祇園祭	南紀美し..... 200	揚州の旅..... 492	..... 559	会代表団、中国国家
を観る—..... 122	明るい風景 暗い風	中国の旅—国慶節に招	これこそ本当の文化	文物局代表団を歓迎
美しい京の欠片(かけ	景..... 203	かれて—..... 494	交流..... 561	して..... 588
ら)..... 126	旅先にとらえた季節	再び揚州を訪ねて..... 497	日中国交正常化十周	韓国の春..... 589
嵐山と三千院..... 127	..... 205	ふしぎな美しいはにか	年を祝い王震団長—	美しくけなげな韓国学

生 ..... 590	ってー ..... 687	<b>第27巻</b>	幻覚の街ヒワ ..... 455	熱 ..... 521
韓国紀行 ..... 591	わが娘に与うー作家の	<b>西域エッセイ</b>	幻覚の街ヒワにて 456	民族の足跡 交流の
韓国に古きものをた	父からー ..... 694	西域に招かれた人々	西トルキスタンの旅	華 ..... 523
ずねて ..... 593	愛される女性ー女の美	..... 9	..... 457	シルクロードの風と水
ニューヨークにて... 607	しきー ..... 695	<b>西域紀行1</b>	シルクロードの旅.. 460	と砂と ..... 524
欧米の街・東京の街	結婚というもの ..... 696	アフガニスタン紀行 39	若い日の夢 ..... 463	インダス溪谷を下る
ー新春に想うー ..... 608	お祝いのことば ..... 697	アレキサンダーの道	砂丘と私 ..... 465	..... 527
ドイツ人のこと ..... 613	親から巣立つ娘へ 698	..... 67	天山の麓の町 ..... 471	ペルセポリスの遺址
井上靖・欧州カメラ紀	娘の結婚 ..... 701	遺跡の旅・シルクロー	シェルパの村 ..... 473	..... 535
行 ..... 615	長女の結婚 ..... 702	ド ..... 161	草原の旅 アフガニス	講演 最近の西域の
ダイナミックな美ー「ロ	嫁ぎし娘よ、幸せに	シルクロード地帯を訪	タン ..... 475	旅から ..... 541
ーマ・オリンピックー九六	..... 704	ねて ..... 303	並河万里の仕事... 476	ボロブドール遺跡に
〇」を見るー ..... 616	愛についての断章 705	クシャーン王朝の跡を	沙漠の国の旅から	立ちて ..... 553
私のオリンピック... 617	女性の美しさ ..... 713	訪ねて ..... 321	..... 478	若羌(チャルクリク)という
珠玉の広場ヴェネツィ	今年大学を卒業する	* ..... 321	民族興亡の跡にーアフ	集落 西域南道の旅
ア ..... 617	わが娘とその友達に	岩村忍「アフガニスタ	ガニスタンー ..... 481	..... 555
アメリカの休日 ..... 619	..... 714	ン紀行」 ..... 435	回教国の旅 ..... 483	異国辺境の子供たち
アメリカ紀行 ..... 622	「恋愛と結婚」につい	カラコルム ..... 436	カメラで捉えた遺産	..... 557
旅の収穫 ..... 641	て ..... 715	<b>今西錦司「カラコラ</b>	..... 484	ミーラン遺址 ..... 559
日の丸・二題 ..... 643	ある空間ー親と子の関係	<b>ム」・日本映画新社監</b>	並河万里「シルクロー	河西回廊の町 ..... 562
モスクワ・レニングラ	ー ..... 720	<b>修「カラコルム」 ..... 437</b>	ド砂に埋もれた遺産」	歴史の通った道 ..... 564
ード ..... 645	自分が自分であること	深田久弥「ヒマラヤー	序 ..... 485	文明の十字路口に新た
ニコライのアイコン... 655	..... 722	山と人ー」 ..... 438	沙漠の町の緑 ..... 486	な光 ..... 567
旅で見る家 ..... 657	幸福の探求 ..... 724	メソポタミア ..... 440	レンズに憶えておいて	漢代且末(しまつ)国
シベリアの列車の旅	青春とは何か ..... 726	「さまよえる湖」につい	貰った“沙漠の旅,, 489	の故地 ..... 568
..... 659	子供と季節感 ..... 728	て ..... 441	アナトリア高原の“謎	法顕の旅 ..... 571
シベリア紀行 ..... 661	講演 人間と人間の関	シルクロードへの夢	の民族,, ..... 491	哈密(はみ)を訪ねる
旅の話 ..... 666	係 ..... 729	..... 442	沙漠と海 ..... 500	..... 574
シベリアの旅 ..... 668	若者たちのエネルギー	西域のイメージ ..... 444	土器の欠片 ..... 502	壺「貴族の生涯」... 580
人生論・女性論	ー ..... 738	中央アジアの薔薇 446	並河万里「シルクロー	「なら・シルクロード博
男はどんな女性に魅	面を上げ、胸を張って	サマルカンドの市場に	ド」序文 ..... 506	を終えて」 ..... 581
力を感じるか? ..... 673	..... 739	て ..... 446	西域の旅から ..... 507	
美しい服装 ..... 674	三つの教訓 ..... 740	砂漠の詩 ..... 447	西域の山河 ..... 509	
善意について ..... 676		デローシュ=ノーブル	限りなき西域への夢	
少年老いやすしー教科		クール「トウトアंकア	..... 512	
書の中の時限爆弾ー.. 679		モン」 ..... 449	ホータンを訪ねる.. 514	
女であるために ..... 681		天山とパミール ..... 451	トルファン街道 ..... 515	
女のひとの美しさ.. 683		「大宛」へ寄せる夢ー	命なりけり ..... 518	
私の恋愛観ー自作に沿		ロシア旅行で訪れたいー	カイバル峠を越えパ	
		..... 453	キスタンへ ..... 519	
			行けぬ聖地ゆえの情	



<b>第28巻</b>	「サンデー毎日」大衆	小説新潮サロン・懸賞	旺文社児童文学賞	本山物語.....618
<b>西域紀行2</b>	文芸.....400	コント.....473	.....532	山西省の重要性...637
私の西域紀行.....9	「サンデー毎日」百万	山の放送劇.....475	高校生の読書体験記	太田伍長の陣中手記
現代語訳	円懸賞小説.....419	女流文学賞.....476	コンクール.....534	.....639
更級日記.....273	「サンデー毎日」小説	野間文芸賞.....487	伊藤整文学賞.....541	現地報告 敢闘する
西行.....313	賞.....421	吉川英治賞.....497	雑稿	農村②近畿①.....640
舞姫.....369	たばこ製造専売五〇	吉川英治文学賞...499	現代先覚者伝(抄)	玉音 ラジオに拝して
<b>選評</b>	年記念懸賞小説...425	吉川英治文化賞...506	.....545	.....643
「少国民新聞」投稿詩	芥川龍之介賞.....427	北日本文学賞.....508	*	耕しながら考える一福
.....389	文學界新人賞.....457	川端康成文学賞...518	徳島県阿部村.....605	井県鶴山農場の例一..644
「きりん」投稿詩.....390	小説新潮賞.....468	大仏次郎賞.....526	点心.....611	

**別巻** (この巻だけは長い行が多いので、2段組に変更)**自作解説**

「井上靖小説全集」自作解題.....25
*
「新文学全集 井上靖集」あとがき.....77
私の処女作と自信作.....78
私の代表作.....80
原作に固執せず.....81
井上靖年譜.....82
「旅路」あとがき.....90
「私たちはどう生きるか 井上靖集」まえがき.....91
「井上靖自選集」著者の言葉.....92
わたしの好きなわたしの小説.....93
「詩と愛と生」あとがき.....94
「三ノ宮炎上」と「風林火山」.....95
「自選井上靖短篇全集」内容見本 著者のことば...95
「射程」ほか.....96
「詩画集 北国」あとがき.....97
「詩画集 珠江」あとがき.....98
「井上靖小説全集」内容見本 著者のことば.....98
二十四の小石.....99
「歴史小説の周囲」あとがき.....103
「井上靖の自選作品」あとがき.....104
「私の歴史小説三篇」について.....105
「西域をゆく」あとがき.....106
英訳井上靖詩集序文.....107
「現代の随想 井上靖集」あとがき.....108

「井上靖歴史小説集」内容見本 著者の言葉.....109
「井上靖歴史小説集」あとがき(抄).....110
「シルクロード詩集」あとがき.....119
「シルクロード詩集 増補愛蔵版」あとがき.....120
「井上靖エッセイ全集」内容見本 著者のことば...120
「井上靖エッセイ全集」あとがき.....121
「井上靖展」図録序.....125
「井上靖自伝的小説集」内容見本 著者のことば...126
「井上靖自伝的小説集」あとがき.....127
中国語訳「井上靖西域小説選」序.....130
中国語訳「西域小説集」序.....131
「シリア沙漠の少年」序.....132
婦人倶楽部と私.....133
頼育芳訳「永泰公主的項鍊」序.....134
*
[明治の月]
「明治の月」をみる.....136
[流星]
「流星」(自作自註).....137
[猟銃]
私の言葉.....139
[闘牛]
「闘牛」について.....139
作品「闘牛」について.....140
「闘牛」の小谷正一氏.....141
[通夜の客]
「吉岡文六伝」を読む.....142

[その人の名は言えない]	「風林火山」と新国劇.....	165
映画「その人の名は言えない」を観る.....	私の夢.....	143
「その人の名は言えない」あとがき.....	「風林火山」について.....	144
[黯い潮]	[春の海図]	
暗い透明感.....	「春の海図」作者の言葉.....	145
[白い牙]	[魔の季節]	
「白い牙」の映画化.....	「魔の季節」作者の言葉.....	147
[黄色い靴]	[嫉捨]	
「黄色い靴」作者の言葉.....	「嫉捨」.....	148
[山の湖]	[短篇集「愛」]	
「山の湖」あとがき.....	映画「愛」原作者の言葉.....	148
[戦国無頼]	[篝火]	
「戦国無頼」について.....	「篝火」について.....	149
「戦国無頼」のおりょうへ.....	[淀どの日記]	150
[春の嵐]	淀どの日記.....	
「春の嵐」あとがき.....	受賞の言葉.....	151
[緑の仲間]	山田五十鈴さんと「淀どの日記」.....	171
「緑の仲間」作者の言葉.....	山田さんと「淀どの日記」.....	152
明るい真昼間の勝負.....	[真田軍記]	173
[座席は一つあいている]	真田軍記の資料.....	
「座席は一つあいている」作者の言葉・ランナー寸感.....	「本多忠勝の女」について.....	154
[風と雲と砦]	[満ちて来る潮]	
「風と雲と砦」作者の言葉.....	登場人物を愛情で描く.....	157
「風と雲と砦」原作者として.....	映画化された私の小説「満ちて来る潮」.....	157
「風と雲と砦」壮大なドラマ化の中で.....	[黒い蝶]	158
[若き怒濤]	「黒い蝶」読者の質問に答える.....	
「若き怒濤」作者の言葉.....	[白い風赤い雲]	179
[あすなる物語]	「白い風赤い雲」作者の言葉.....	
「あすなる物語」作者の言葉.....	[白い炎]	183
[花と波濤]	[氷壁]	
「花と波濤」作者の言葉.....	「氷壁」わがヒロインの歩んだ道.....	160
紀代子に托して.....	美那子の生き方.....	161
[昨日と明日の間]	[天平の壘]	
「昨日と明日の間」をみて.....	「天平の壘」の登場人物.....	161
[戦国城砦群]	「天平の壘」について.....	
「戦国城砦群」作者のことば.....	心温まる“普照”との再会.....	162
[風林火山]	「天平の壘」の作者として.....	
「風林火山」の劇化.....	「天平の壘」上演について.....	185
「風林火山」原作者として.....	「天平の壘」の読み方.....	187
「風林火山」の映画化.....	「天平の壘」の作者として.....	189

「天平の壺」ノート..... 193	[盛装]
[犬坊狂乱]	「盛装」作者の言葉..... 222
犬坊狂乱について..... 195	[風濤]
[地図にない島]	作品「風濤」の喜び..... 223
「地図にない島」作者の言葉..... 196	「風濤」韓国訳の序に替えて..... 224
[揺れる耳飾り]	[塔二と弥三]
「揺れる首飾り」作者の言葉..... 197	「塔二と弥三」について..... 224
[朱い門]	[紅花]
「朱い門」あとがき..... 197	「紅花」作者のことば..... 225
[ある落日]	[楊貴妃伝]
「ある落日」作者の言葉..... 198	「楊貴妃伝」の作者として..... 226
「ある落日」あとがき..... 198	原作者として..... 227
[楼蘭]	[後白河院]
「楼蘭」の舞踊化..... 199	「後白河院」の周囲..... 228
「楼蘭」新装版あとがき..... 199	[凍れる樹]
[川村権七逐電]	「凍れる樹」作者の言葉..... 232
「川村権七逐電」作者のことば..... 200	[化石]
[敦煌]	判らぬ“一鬼”の運命..... 232
辺境地帯の夢抱いて..... 201	映画「化石」と小説「化石」..... 234
「敦煌」作品の背景..... 202	[おろしや国酔夢譚]
敦煌を訪ねて..... 203	「おろしや国酔夢譚」の旅..... 236
小説「敦煌」の舞台に立ちて..... 206	「おろしや国酔夢譚」の舞台..... 247
小説「敦煌」ノート..... 210	受賞の言葉..... 249
敦煌 砂に埋まった小説の舞台..... 213	日本漂民の足跡を辿って..... 250
[河口]	[西域物語]
「河口」作者の言葉..... 214	「西域物語」作者の言葉..... 259
[月光]	[ローマの宿]
「月光」作者の言葉..... 214	「ローマの宿」作者の言葉..... 259
[群舞]	[花壇]
「群舞」作者の言葉..... 215	「花壇」作者のことば..... 260
「群舞」著者のことば..... 215	[本覚坊遺文]
[洪水]	本覚坊あれこれ..... 260
「洪水」上演について..... 216	「本覚坊遺文」ノート..... 262
[蒼き狼]	[異国の星]
「蒼き狼」について..... 216	「異国の星」作者の言葉..... 267
原作者のことば..... 217	[異域の人他]
原作者として..... 218	新版「異域の人 自選西域小説集」あとがき..... 268
[しろばんば]	[孔子]
「しろばんば」の幸運..... 219	いまなぜ孔子か..... 268
「しろばんば」私の文学紀行..... 220	小説「孔子」の執筆を終えて..... 272
「しろばんば」の挿絵..... 221	中国の読者へ..... 276

## 雑纂

[追悼文]..... 285

古知君のこと 渋沢敬三氏を悼む 永松君へのお別れのことば [鹿倉吉次追悼文] 堂谷さんと私  
 竹林君のこと 吉川先生のこと 高野君のこと・弔詞 弔詞(露木豊) 追悼・廖(りょう)承志先生  
 北京でのひと時 平岡君のこと 森さんのこと 永野さんの笑顔 野間さんのこと 弔詞(今里廣記) **桑原武夫さんの死を悼む** 弔辞(斎藤五郎)  
 巨星奔り去る 五島さんへ

[監修者・編集者の言葉]..... 301

「現代世界ノンフィクション全集」監修にあたって  
 「日本の詩歌」編集委員のことば 昔の海外旅行  
 「若い女性の生きがい」編者の言葉 全集「10冊の本」完結に当たって 「世界の名画」編集委員のことば 「日本の名画」編集委員のことば 「現代日本紀行文学全集」監修者の一人として 「世界紀行文学全集」監修者の一人として **「大宅壮一全集」編集委員のことば** 「カンヴァス世界の大家」編集委員のことば 「日本の名山」監修の言葉 「武者小路実篤全集」刊行によせて 「日本の庭園美」の監修にあたって

[公演等パンフレット]..... 309

すゞらんグループ公演「商船テナシテイ」 瀬川純  
 シャンソン・リサイタル 小沢征爾指揮日フィル特別演奏会 松美会開催によせて 前進座公派「屈原」三代目花柳寿輔襲名披露舞踊会 前進座三十五周年興行 島田帯祭 前進座東日本公演 「天山北路」芸術祭大賞受賞記念 和泉会別会 くない会 森井道男「花木なかば」出版記念会 歌劇「香妃」公演 東宝ミュージカル「屋根の上のヴァイオリン弾き」公演 中国越劇日本初公演 松竹九〇年の正月に 入江さんから教わったこと 橘芳慧さんへのお祝いの詞 「世田谷芝能」によせて 歌舞伎・京劇合同公演 和泉狂言会 日中合作大型人形劇「三国志」特別公演に寄せて

[展覧会パンフレット]..... 323

田辺彦太郎油絵個人展 **須田国太郎遺作展** 今井

善一郎作品展 杉本亀久雄個展 石川近代文学館開館記念「郷土作家三人展」 第十六回印刷文化展 小林勇水墨画展 彫刻の森美術館に寄せて 第六回人間国宝新作展 世界写真展「明日はあるか」 国宝鑑真和上像中国展 中国を描く現代日本画展 ガンダーラ美術展 二村次郎写真展「巨樹老木」 小野田雪堂展 東京富士美術館「中国敦煌展」 神奈川近代文学館「大衆文学展」 白川義員写真展「仏教伝来」 牧進展に寄せて なら・シルクロード博覧会 三木武夫・睦子夫妻芸術作品展 近代日本画と万葉集展 西山英雄展

[その他小文]..... 335

消息一束 おめでとう 本紙創刊五周年に寄せて 最近感じたこと あにいもうと 七人の侍 顔 近況報告 私の夏のプラン 屋上 作家の言葉 「大衆文学代表作全集 井上靖集」筆蹟 オレンジアルバム 評 オレンジアルバム 作者のことば わたしの一日 私の抱負 ふいに訪れて来るもの 編集部的一年間 私の誕生日 作家の二十四時 友への手紙 識見を感じさせる作品 孤愁を歌う 作家 清新さと気品 「婦人朝日」巻頭筆蹟 「現代国民文学全集 井上靖集」筆蹟 「小説新潮」巻頭筆蹟 菊村到 新しい可能性 読書人の相談相手として 三友消息 青い眺め 日本談義復刊100号に寄する100名の言葉 三役の弁 穂高沖ノ島 「週刊女性自身」表紙の言葉 「私たちはどう生きるか井上靖集」筆蹟 独自の内容と体裁 「高校時代」巻頭筆蹟 三友消息 税務委員会報告 さくら 「日本現代文学全集 井上靖・田宮虎彦集」筆蹟 レジャーと私 娘と私 編集方針を高く評価 私の好きなスター 私の好きな部屋 横綱の弁 私の生命保険観 「昭和文学全集井上靖」筆蹟 社会人になるあなたへ 作家の言葉 ベニス 香川京子さん 駿河銀行大阪支店開店広告文 帝塚山大学推薦のことば 京劇西遊記 「現代の文学 井上靖集」筆蹟 井上吉次郎氏のこと 「婦人公論」のすすめ The East and the West 作家の顔 「婦人公論」の歩みを讃える 「われらの文学 井上靖」筆蹟 アトリエ風の砦 「豪華版日本文学全集 井上靖集」筆蹟 木村国喜に注文す

る 岡田茉莉子 型を打ち破る 加藤泰安氏のこと 居間で過ごす楽しみ ハワイ焼けした井上靖さん 「詩と愛と生」筆蹟 吉兆礼讃 「群舞」東方社新文学全書版筆蹟 小坂徳三郎君に、私たちの希望を託したい。 三木さんへの期待 文学界と私 「現代日本文学大系 井上靖・永井龍男集」筆蹟 週刊新潮掲示板 版画の楽しさ、美しさ ロートレックのスケッチ 東大寺のお水とり 雑然とした書棚 美術コンサルタント サヨナラフクちゃん 「作家愛蔵の写真」解説 広い知性と教養 野心作への刺激に… 序文 茶室を貴ぶ 観無量寿経集註 小料理「稲」案内文 **朝比奈隆氏と私** 怒りと淋しさ 初めて見る自分の顔 「井上靖の自選作品」筆蹟 美しく眩しいもの 佐藤さんと私 「月刊美術」を推せんする 私と福栄 「政策研究」巻頭言 大きな役割 原文 兵衛後援会入会のおしり 信夫さんのこと 「月刊京都」創刊によせて 井上靖一シリーズ日本人 [好きな木] 養之如春 新会長として 成人の日に 二十年の歩み 役員の一員として [便利堂会社概要] 小林さんのこと 週刊読売と私 徳沢園のこと [沼津市名誉市民に選ばれて] 元秀舞台四十年 庶民の体験のなかに感動のドラマが 週刊新潮掲示板 わが人生観 文学館の先駆 岡崎嘉平太「終りなき日中の旅」 オリオンと私 「中華人民共和国現代絵画名作集」推奨の辞 [修善寺工業高校創立五十周年記念寄稿文] 竹内君と私 二十五周年に寄せて 「シルクロード幻郷」巻頭言 「なら・シルクロード博」ごあいさつ 小誌「かぎろひ」に期待する 「なら博」の建築 奈良県新公会堂ごあいさつ 「むらさき亭」を名付けるにあたり 月刊「しにか」創刊によせて 尽己 詩集「いのち・あらたに」に寄せて

[歌詞]..... 398  
修善寺農林高等学校校歌 山高ければ 吉原工業高等学校校歌 沼津聾学校校歌 集英社社歌 天城中学校校歌 羽後中学校校歌 北陸大学校歌

[碑文]..... 404  
沼津駅前広場母子像碑文 宝蔵院史碑文 修善

寺工業高校碑文 世界貿易センタービルディング基礎の辞 秋田県西馬音内小学校碑文 「内灘の碑」碑文 徳田秋声募碑撰文 滋賀県向源寺（渡岸寺観音堂）碑文 山本健吉文学碑撰文 舟橋聖一生誕記念碑文 長崎物語歌碑撰文 沼津東高校碑文 新高輪プリンスホテル新宴会場の命名 妙覚寺碑文 上山田町碑文

[序跋]..... 410  
中村泰明「詩集 烏瓜」序 「創作代表選集13」あとがき 村松喬「異郷の女」序 船戸洪吉「画壇 美術記者の手記」序 安川茂雄「霧の山」序 濱谷浩「写真集 見てきた中国」序 伊藤祐輔「石糞」序 齊藤諭一「愛情のモラル」序 大竹新助「路」序文 「きりんの本5・6年」序 「川」あとがき 大隈秀夫「露草のように」序 山本和夫「町をかついできた子」序 山下政夫「円い水平線」序 永田登三「関西の顔」序 「半島」まえがき 辻井喬「宛名のない手紙」あとがき 小林敬三「宣伝のラフとフェアウェイ」序 池山広「漆絵のような」序 西川一三「秘境西域八年の潜行」序 宮本一男「ハワイ二世物語」序 山崎央「詩集 单子論」序 野村米子「歌集 憂愁都市」序 井上吉次郎「通信と対話と独語と」序 ヤクボーフスキー他著・加藤九祚訳「西域の秘宝を求めて」序 椿八郎「鼠の王様」序 「現代の式辞・スピーチ・司会」序文 A・マルチンス・J「夜明けのしらべ」序 岸哲男「飛鳥古京」序 加藤九祚「西域・シベリア」序 赤城宗徳「平将門」序 伊藤祐輔「歌集 千本松原」序 岩田専太郎画集「おんな」跋 今田重太郎「穂高小屋物語」序 生沢朗画集「ヒマラヤ&シルクロード」序 石岡繁雄「屏風岩登攀記」序 櫻野朝子「運命学」序 「日本教養全集15」あとがき 「わが青春の日々」上巻序 白川義員作品集「アメリカ大陸」序文 秋山庄太郎作品集「薔薇」序 **大西良慶「百年を生きる」跋** 「秘境」序 浦城二郎訳「宇津保物語」序 **持田信夫「ヴェネツィア」序** 井上由雄「詩集 太陽と棺」序 生江義男「ヒッパロスの風」序 尾崎稲穂「蟋蟀(こおろぎ)は鳴かず」序 椿八郎「『南方の火』のころ」序 北条誠「舞扇」まえがき 石川忠行「古塔の大和路」序 「観る聴く 一枚の繪対話集」 本木心

掌「峠をこえて」序 土門拳「女人高野室生寺」序  
 安田登紀子仏画集「仏像讃美」序文 「長谷川泉詩集」序 筆内幸子「丹那婆」序 入江泰吉写真集3  
 「大和の佛像」序 長井洞著・長井浜子編「続・真向一途」序 松本昭「弘法大師入定説話の研究」序  
 坂入公一歌集「枯葉帖」序 白井史朗「古寺巡礼ひとり旅」序 柳木昭信写真集「アラスカ」序 「世界出版業2 日本」序言 坪田歆一編「文典」序 「回想 小林勇」あとがき 「熱海箱根湯河原百景」序  
 「北日本文学賞入賞作品集」序 「中国 心ふれあいの旅」序 白川義員作品集「中国大陸 下巻 天壤無限」序文 屠国壁「楼蘭王国に立つ」序 「日本の名随第33 水」あとがき 「日本国立公園」序 大場啓二「まちづくり最前線」序 段文傑「美しき敦煌」序 水越武写真集「穂高 光と風」序 「写真集 旧制四高青春譜」序 白川義員作品集「仏教伝来2 シルクロードから飛鳥へ」序 「西域・黄河名詩紀行」序 TBS特別取材班「シベリア大紀行」序  
 「西域・黄河名詩紀行」序 TBS特別取材班「シベリア大紀行」序 「高山辰雄自選画集」英語版序 入江泰吉写真集「新撰大和の仏像」序 駒澤晃写真集「佛姿写伝・近江一湖北妙音」序文 田川純三「絲綢之路行」序 **持田信夫遺作集「天空回廊」** 舒乙「北京の父 老舎」跋 「中国漢詩の旅」序 「日本の短篇上」序 斯波四郎「仰臥の眼」序 「茶の美道統」序

[アンケート回答]..... 492  
 文芸作品推薦あんけいと アンケート わたしのペット 甘辛往来 二つのアンケート 美味求心 時計と賞金 今日の時勢と私の希望 初めてもらったボーナスの使い方 梅本育子詩集「幻をてる人」への手紙 NHKに望むこと 先輩作家に聞く 読書アンケート 一九五六年型女性私の選んだ店 戦後の小説ベスト5 批評家に望む 芸術オリンピック—建築— 旅行なくて7くせ 「あまカラ」終刊によせて 受賞作家へのアンケート

[推薦文]..... 499  
 「卒業期」 若杉慧「青春前期」 佐藤春夫「晶子

曼陀羅」 現代女性講座 岸田国土長編小説全集 長谷部成美「佐久間ダム」 日本人の生活全集 世界大ロマン全集 新田次郎「孤島」 新版世界文学全集 富士正晴「游魂」 斯波四郎「禽獸宣言」 加藤てい子「廓の子」 中国詩人選集 世界文学大系 堀辰雄全集 獅子文六作品集 新名将言行録 決定版世界文学全集別巻 シャーロック・ホームズ全集 野口富士男「ただよい」 土門拳「ヒロシマ」 新選現代日本文学全集 野口富士男「海軍日記」 現代人の日本史 萩原朔太郎全集 ふるさと伊豆 瓜生卓造「氷原の旅」 堀田善衛「上海にて」 現代語訳 古典日本文学全集 日本地理風俗大系 世界文学全集 ゲーテ全集 世界名著大事典 野島の調べ 福田宏年「山の文学紀行」 エリオット全集 日本文学鑑賞辞典 日本文学全集 続日本の名城 世界の歴史 少年文学代表選集 大屋典一「孤雁」 平野岑一「世界第六位の新聞」 世界美術大系 安藤更生「日本のミイラ」 図説世界文化史大系 日本山岳名著全集 佐藤春夫監修「古戦場」 歴史小説の旅 岩波文庫 世界の文学 岩波国語辞典 続歴史小説の旅 安藤更生「鑑真」 世界の文化地理 岩波国語辞典 ロシア・ソビエト文学全集 魯迅選集 高木健夫「新聞小説史稿」 日本近代文学図録 ヘディン中央アジア探検紀行全集 漢詩大系 世界文化シリーズ 島田謹介写真集「信濃路」 福田宏年「バルン氷河紀行」 潤一郎新々訳源氏物語 世界の文化 日本の歴史 日本の合戦 歷程詩集 折口信夫全集 フローベール全集 町春草「たのしい書」 少年少女日本の歴史 **世界の名著** (貝塚さんの『論語』を読んで) 西域探検紀行全集 「日本の美術」創刊 世界の戦史 世界の遺跡 立川昭二「鉄」 新十八史略 世界の名画 洋画100選 角田房子「アマゾンの歌」 購読 社国語辞典 **林屋辰三郎「日本 歴史と文化」** 人物・日本の歴史 角川日本史辞典 ジュニア版日本の文学 日本詩人全集 日本の文学 中国の思想 旺文社国語実用辞典 中国文学名作全集 日本文学の歴史 日本古典文学大系 近代日本の文豪 小島直記「岡野喜太郎伝」 日本短篇文学全集 **吉川幸次郎全集** 新潮日本文学小辞典

新版西洋美術史 新潮世界文学 奈良六大寺大観  
 現代日本文学大系 新異国叢書 牛島秀彦「アメリカの白い墓標」 工藤一三「柔道の技法」 定本モラエス全集 美術文化シリーズ 岩波講座 世界歴史 日本の名著 世紀別日本と世界の歴史 児島桂子「一死刑囚への祈り」 現代日本の文学 県史シリーズ 角川国語辞典 新版 モラエス「おヨネとコハル・徳島の盆踊(抄)」 有吉佐和子選集 茶道美術全集 現代版画 日本高僧遺墨 池大雅「瀟湘八景扇面帖」 豊田穰「長良川」 東西文明の交流 岩波国語辞典 第二版 特選名著複製全集 近代文学館 複製日本古典文学館 日本の花木 日本古地図集成 永野重雄「和魂商魂」 小高根二郎「詩人伊東静雄」 世界紀行文文学全集 豪華保存版 絵巻・日本の歴史 石森延男児童文学全集 **嵯峨野** 手塚富雄全訳詩集 藍紙本萬葉集 陶磁大系 御物集成 藤田信勝「余録抄」 トルストイ全集 野村尚吾「伝記 谷崎潤一郎」 文房四宝 菅野邦夫「草木と遊ぶ」 美術研究完全復刊 日本国語大辞典 日本庶民文化史料集成 CLASSICA JAPONICA 現代韓国文学選集 現代日本文学アルバム 堀勝彦「写真集 アンナプルナ・ヒマール」 雅楽 アイヌ絵集成 久松潜一監修「萬葉集講座」 全釈漢文大系 彦火火出見尊繪巻 田中仙翁 「茶の心」 深井晋司「ペルシアのガラス」 蔵書版新字源 日本生活文化史 芹沢光治良作品集 大乘仏典 韓国美術全集 中国怪奇全集 入江泰吉「萬葉大和路」 顔真卿祭姪文稿 野村尚吾「浮標燈」 石坂洋次郎「わが日わが夢」 人物日本の歴史 覆刻渡辺畢山真景・写生帖集成 角川日本史辞典第二版 故宮博物院 新修日本絵巻物全集 船山馨小説全集 考古の旅 ローマの噴水 芝木好子作品集 原色茶道大辞典 ほるぷ日本の名画 ウエハラ・ユクオ「ハワイの声」 覆刻日本の山岳名著 平田郷陽作品集「衣裳人形」 コンサイス世界年表 石田茂作「聖徳太子尊像聚成」 **貝塚茂樹著作集** 角川蔵書版辞典セット 岸哲男「萬葉山河」 奥野健男文学論集 小松茂美「平家納経の研究」 唐墨名品集成 油井一ニコレクション 美の宝廊 **石黒孝次郎「古く美しきもの」** 日本原始美術大系 郭沫若選集 壬辰戦亂史 加藤義一郎「茶盃抄」 高専柔道の真髓 佐多稲子全集 現代日本画家素描集 創作陶画資料 茶の本 入江泰吉「佛像大和路」 国宝綴織当麻曼陀茶羅 日本書蹟大鑑 敦煌への道 日本文学全史 藤島亥治郎「塔」 瓜生卓造「スキー風土記」 東山魁夷画文集 源豊宗「日本美術史論究」 新修大津市史 購談社インターナショナル 昭和萬葉集 吉川靈華画集 桑田忠親著作集 平山郁夫「現代日本巨匠選 浄瑠璃寺」 春名徹「にっぽん音吉漂流記」 小島烏水全集 在外日本の至宝 加藤楸邨全集 小松茂美「国宝元永本古今和歌集」 日本現代文学全集 敦煌莫高窟 蔵 陳舜臣「中国の歴史」 速水御舟《作品と素描》 升本順子「シルクロードの女たち」 竹内栖鳳 中国の博物館 **梅原猛著作集** 日本大歳時記 未完の対局 松本和夫「シルクロード物語」 近代文人の書画 會津八一全集 複製日本の雑誌 石元泰博「湖国の十一面観音」 草人木書苑 草人木書苑 染織大辞典 広漢和辞典 古典大系日本の指導理念 安嶋彌「虚と実と」 日本の原爆文学 長澤和俊「シルクロード踏査行」 前田千寸「複製版日本色彩文化史」 富岡鐵齋印譜集「魁星閣印譜」 エボカ 密教美術大観 木本誠二「謡曲ゆかりの古蹟大成」 D&R・ホワイトハウス「世界考古学地図」 大谷家蔵版新西域記 復刻版 **末永雅雄「日本史・空から読む」** 魯迅全集 観音経繪巻 秘仏十一面観音 新潮世界美術辞典 アジア歴史事典 新撰墨場必携 世界の民話 石田幹之助著作集 文人畫粹(画粹)編 中国篇 遥かなる文明の旅 葉上照澄「願心」 河村藤雄「六代目中村歌右衛門」 日本現代詩辞典 **樋口隆康「シルクロード考古学」** 黄河図 昭和文学全集 少年少女世界文学館 裘沙画集「魯迅の世界」 松田壽男著作集 日本の絵巻 原色茶花大事典 学習漫画 中国の歴史3 鑑賞中国の古典 冬青 小林勇画集 「科学と文芸」復刻版 「新しき村」復刻版 小松茂美「古筆学大成」 秋岡コレクション 世界古地図集成 加藤勝代「わが心の出版人」 影印本 天王寺屋会記 明治文学全集 小松茂美「日本絵巻聚稿」 浦西和彦・浅田隆・太田登「奈良近代

文学事典」 日本の名随筆 岩波講座 現代中国  
田川純三「大黄河をゆく」 保坂登志子「青の村 山  
本和夫文学ガイド」 中国石窟シリーズ シルク  
ロードの民話 国際交流につくした日本人 日本  
地名資料集成 ビデオライブラリー敦煌 槇有恒  
全集 I 憧憬 萬里の長城 ひろさちや「仏教の歴  
史」 毎日学校美術館

## 補遺

### [詩歌]

オリンピアの火..... 609  
友..... 609  
郷愁..... 610  
西域四題..... 610  
沙漠の花..... 611  
桂江..... 611  
フンザ溪谷の眠り..... 612  
日本の春—うずしお・さくら・飛天—..... 613  
車..... 613

### [自伝エッセイ]

伊豆の海..... 614  
受賞が縁で毎日に入社..... 615  
私の結婚..... 616  
ペンが記録した年輪..... 617  
幼き日の正月..... 619  
星のかけら..... 621

### [文学エッセイ]

この人に期待する—文学—..... 622  
1947年の回顧—文学—..... 623  
創作月評..... 624  
佐藤先生の旅の文章..... 624  
「詩と詩論」その他..... 626  
竹中さんのこと..... 628  
知的な虚構の世界..... 631  
山本さんのこと..... 634

### [随想]

今年の春..... 636  
中国文学者の日本の印象..... 638  
育った新しい友情..... 639  
設立三十周年を祝す..... 641

### [美術エッセイ]

静物画の強さ..... 643  
銀製頭部男子像燭台(部分)..... 644

### [紀行]

ありふれた風景なれど..... 645  
木々と小鳥と..... 648  
わたしの山..... 651  
敦煌・揚州..... 652  
文明を生み育て葬る..... 655

### [選評]

第十一回読売短編小説賞選後評..... 657  
新文章読本..... 657

## 別巻補遺

[自作解説] 「天平の薨」映画化のよろこび [追悼  
文] 和歌森さんのこと [監修者・編集者の言葉]  
「日本文学全集」編集委員のことば 「黄文弼著作  
集」監修者のことば [展覧会パンフレット] 石川  
近代文学館展 [その他小文] 扉のことば フォ  
トエッセイ 「岩稜」お祝の詞 **私と京都ホテル**  
[序祓] 北岡和義「檜花 評伝 阿部武夫」序 矢野  
克子「詩集 空よ」序 [アンケート回答] 30人への  
3つの質問 [推薦文] 串田孫一随想集 少年少  
女世界名作文学全集 世界の旅 太田亮「姓氏家  
系大辞典」 日本の考古学 ひろすけ絵本 石  
坂洋次郎文庫 日本歴史シリーズ 日本建築史基  
礎資料集成 愛蔵版世界文学全集 ドキュメント  
苦小牧港 世界陶磁全集 日本の美 現代日本写  
真全集 学研漢和大事典 近代洋風建築シリーズ  
切手 山本健吉全集 八木義徳全

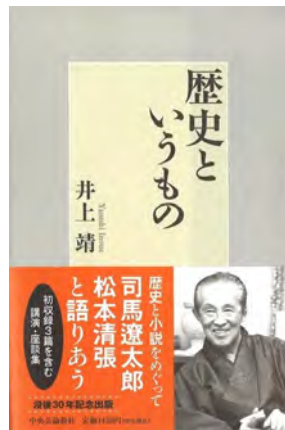


最後に、全集以外で今回参考にした情報や本をまとめてみます。まず、

井上靖記念文化財団 <http://www.inouezaidan.or.jp/>  
そして2021年、貴重な対談(鼎談)をまとめた本が2冊発行されたことに、遅ればせながら2021年末に気がきました。



2021.5.30 朝日新聞出版



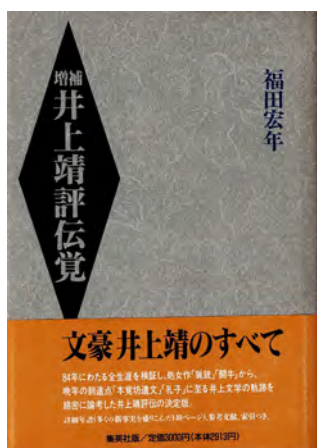
2021.10.10 中央公論新社

とりわけ、「歴史というもの」の方では、偶然にも本文中で話題にした松本清張さんや司馬遼太郎さんとの鼎談が2編載録されていたので少々おどろきました。

井上家の方々による以下の本も貴重です。



井上卓也(二男) 1991 文藝春秋



福田宏年(井上ふみ夫人の次兄の娘婿)1991 集英社



黒田佳子(二女) 2000 潮出版社



浦城いくよ(長女) 2016 ユーフォーブックス

また、伊吹和子さん(1929-2015元京都大学文学部国語学国文学研究室勤務→中央公論社)の「めぐり逢った作家たち」平凡社2009でも興味深い話が紹介されています。

井上さんの小説を味わう上で、以下のムックにある写真などは筆者にとってたいへんありがたいです。



1985 日本交通公社



1991 毎日新聞社



2007 平凡社

なお、文藝春秋七十年史[資料編](1994)の総目次より、以下の作品があります(Sは昭和、続く数字は年・月)が、座談会・対談以外は全集に収録されていると思います。

小説 S25・4 S25・7~10 S26・8 S27・2 S28・12 S29・7 S30・1 S30・5 S30・12 S31・10 S32・6 S33・7 S34・10~S35・7 S38・1 S41・1~S42・12 S43・5 S45・1 S54・3

詩 S37・7 S40・6 S51・2

ノンフィクション全般 S38・6 S43・8 S49・1~S50・6 S51・8~9 S53・1~S54・2 S54・4~6 S55・1~S56・12

読物・随筆等 S31・3 S33・3 S44・6 S46・1~S47・3 S47・7 S60・9

座談会・対談 S28・3(「人生は長い眼で」、中野好夫・林譲治・松澤一鶴・岸道三・手島志郎らと) S37・2(「シルクロードの虹」、ライシャワーと)

さらに、本文中に転載した「同級生交歓」に加え、「日本の顔」として、井上さんが1970年8月(63歳)、朝比奈さんが1979年6月(70歳)に、それぞれ登場しておられます。

一方、動画は以下のNHKのウェブサイトにあります。

NHK あの人に会いたい File No.72 井上靖

[https://www.nhk.or.jp/archives/people/detail.html?id=D0009250072\\_00000](https://www.nhk.or.jp/archives/people/detail.html?id=D0009250072_00000)

NHK あの人に会いたい File No.138 朝比奈隆

[https://www.nhk.or.jp/archives/people/detail.html?id=D0009250138\\_00000](https://www.nhk.or.jp/archives/people/detail.html?id=D0009250138_00000)